



真の強さを学ぶ。

新潟大学

NIIGATA UNIVERSITY



NUstyle

2019



真の強さを学ぶ。

新潟大学は、
多様な学びや、教科書にないことを
身につけられる研究機会によって、
想像力と創造力を仲間と磨き合うことができ、
自信に満ちた思いやりのある人間へと
成長することができる大学です。
新潟大学で学んだ者は、
タフでありしなやかでもある真の強さを持ち、
人生の課題に立ち向かうことができます。

NU style

新潟大学の理念・目標

新潟大学は、高志の大地に育まれた敬虔質実の伝統と世界に開かれた海港都市の進取の精神に基づいて、自律と創生を全学の理念とし、教育と研究を通じて地域や世界の着実な発展に貢献することを全学の目的としています。

新潟大学の理念の実現と目的の達成のために掲げる4つの目標

- 1 教育の基本的目標を、精選された教育課程を通じて、豊かな教養と高い専門知識を修得して時代の課題に的確に対応し、広範に活躍する人材を育成することに置く
- 2 研究の基本的目標を、伝統的な学問分野の知的資産を継承しながら、総合大学の特性を活かした分野横断型の研究や世界に価値ある創造的研究を推進することに置く
- 3 社会貢献の基本的目標を、環日本海地域における教育研究の中心的存在として、産官学連携活動や医療活動等を通じ、地域社会や国際社会の発展を支援することに置く
- 4 管理運営の基本的目標を、国民に支えられる大学としての正統性を保持するために、最適な運営を目指した不断の改革を図ることに置く

CONTENTS

- 02 □ 学長ビジョン「姿デザイン」
- 04 ■ 数字でわかる新潟大学
- 06 ■ TOPICS
- 10 ■ 歴史
- 11 ■ 組織
- 12 ■ 学部
- 14 ■ 大学院・別科
- 16 ■ 学生データ
- 17 ■ 教育プログラム
- 18 ■ 学生の支援
- 19 ■ キャリア形成の支援
- 20 ■ キャンパスライフ
- 21 ■ 地域社会への貢献
- 22 ■ 産官学連携
- 23 ■ 世界へ向けて
- 24 ■ 脳研究所
- 25 ■ 災害・復興科学研究所
- 26 ■ 環東アジア研究センター/佐渡自然共生科学センター
- 27 ■ 歯学総合病院
- 28 ■ その他の施設
- 29 ■ お問い合わせ先 / アクセス
- 30 ■ キャンパスマップ

●このパンフレットに登場するモデルは新潟大学の在学生です。撮影は全て新潟大学内で行っています。

環東アジア地域を基点に 世界を見据えて

新潟大学は、高志(こし)の大地に育まれた敬虔質実の伝統と、世界に開かれた海港都市の進取の精神に基づき、「自律と創生」を全学の理念に掲げています。日本海側ラインの中心、新潟に位置する大規模総合大学として、環東アジア地域を基点に世界を見据え、教育と研究及び社会貢献を通じて、世界の平和と発展に寄与することを全学の目的としています。

そのため、世界に誇れる教育と研究の拠点を構築し、新潟大学の総合力を活かした学位プログラム(人材育成目標に基づいてカリキュラム設計された教育プログラム)に基づく教育を行います。学士課程では、広い教養と確かな専門性を有した課題発見・問題解決型人材を養成します。また大学院においては、専門性の深化とともに、異分野の融合も可能とする教育研究を推進することで、国際社会のニーズに応えられる中核の人材を輩出します。

研究面では、脳・神経科学研究など強み、特色ある特定の分野の研究を重点支援することで、大学全体の研究力を高めます。

教育研究により得られた成果は、広く産業界や行政との連携を通じて社会に還元し、地域の活性化に貢献していきます。

新潟大学長
高橋 姿



将来展開に向けた機能強化基本戦略

国内でも少子高齢化が先行する日本海側に立地する大規模総合大学の特性を踏まえ、医療分野をはじめ分野横断的な教育研究拠点として存立し、地域貢献及び強み・特色ある分野の課題に重点的に取り組む。日本海側広域の課題解決への貢献を通じて地域社会における国立大学の役割を積極的に果たすとともに、将来急激な高齢化等の社会的課題への直面が予期される対岸アジア社会を基点とした国際交流のネットワーク強化を通じて得られた多様な成果を国内地域社会へも還元する。

戦略1 人材養成システム改革

新潟大学型質保証による学位プログラムの推進を中核とした教学システム改革

<改革方針>
 大学の先導的教育改革の取組みによる資源(全科目目化、分野・水準表示法、主専攻・副専攻プログラム等)を最大限活用し、既存学部再編と学生自身が学修をデザインする到達目標創生型の創生学部新設を起点に教育改革を断行する。教育組織再編・強化・改善のサイクルを継続的に実施するため、全学組織「教育・学生支援機構」再編等を通じ、学長直轄下の本部との連携に基づく教学ガバナンス強化によって、全学の改革を加速させる。



戦略2 社会貢献システム確立

「環東アジア」地域教育研究拠点形成と地域社会への還元システム構築

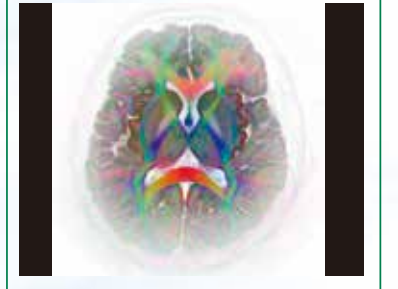
<改革方針>
 全学司令塔の下に、日本海側中央にある新潟の地から環東アジア地域へ、環東アジア地域から新潟の地へ、の社会還元型の相互連携強化を目的とした部局横断のネットワーク型教育研究拠点を形成する。グローバル化が進行する中、知・地の拠点として、環東アジア地域における文化・歴史、政治・経済、医療、産業技術等の課題提起・提言による教育研究成果の発信、社会で活躍する人材輩出等を通じた社会還元効果を高める基盤となる域内プラットフォームの機能を強化する。



戦略3 イノベーション創出環境醸成

健康長寿と安全・安心社会の未来科学創生に向けた超域研究ネットワーク形成

<改革方針>
 健康長寿と安全・安心社会形成への貢献のため、先駆的研究によるイノベーション創出と次世代人材育成の機能を強化する。そのため総合大学の強みを活かし、脳・神経科学をはじめ医学分野におけるデータ活用等分野を超えた融合・連携研究すなわち「超域」研究の活性化を通じ、国内外の分野間・研究者コミュニティ間ネットワーク拠点へ進展させる。これらの実現に向け全学的テーマを複数年で設定、重点化する。



中期経営基本戦略

環東アジアを拠点に世界を見据える大規模総合大学として存立する自らの特性を踏まえ、教育研究における特長の更なる伸長等を通じ、将来にわたる社会的使命を果たしていく。そのため、全学の機能強化につながる取組への重点化と資源獲得方策の強化、限りある資源活用の効率性・有効性向上などの「攻め」と「守り」を両立させたシステム確立により経営力を向上させ、自らの存立基盤の強化を実現していくことを目的とする。

戦略1 経営構造の体系化・可視化

中期経営基本戦略の下に以下の方針等を位置づけ、経営的視点による管理運営等の方向性を示すことなどにより全学の意識改革を促す。

- 国立大学法人新潟大学の将来展開に向けた機能強化基本戦略
- 学長のリーダーシップに基づく資源配分改革方針
- 教員の人的資源配分に関する改革方針
- 設備の整備等に関する改革方針
- 予算編成基本方針

戦略2 共通指針による統制

中期経営基本戦略において以下の共通的な指針を定めその実行を通して経営力強化の基盤を形成する。

- 本部機能強化等を通じた統制
司令塔機能発揮により「攻め」「守り」一体の経営力を強化する。
- 外部資金等獲得による収入構造強化にかかる統制
「攻め」につながる経営基盤を構築する。
- 人件費総額キャップ設定による統制
「守り」の強化として、監事や学外者による財政健全性・持続可能性等のチェックを強化。構成員の認識共有を徹底する。

役員

学 長	高 橋 姿	理 事	副学長
監 事		企画・評価担当/副学長	学生支援・就職支援担当
業務監査等担当	田代 文俊	教育・高大接続担当/副学長	学務担当
会計監査等担当(非常勤)	逸見 和宏	研究担当/副学長	入試・高大接続・広報担当
		国際担当/副学長	大学改革担当
		社会連携・財務担当/副学長	医学総合病院担当
		総務・労務担当/副学長	社会連携・情報化推進担当
			国際・環東アジア構想担当
			ダイバーシティ担当
			箕口 秀夫
			濱口 哲
			大浦 容子
			高橋 均
			牛木 辰男
			川端 和重
			成田 邦彦
			松井 克浩
			坂本 信
			小野 和宏
			富田 善彦
			阿部 和久
			高橋 秀樹
			小久保美子

Data

数字でわかる新潟大学



沿革 歴史と伝統の新潟大学
創立70年
 (前身の共立病院から約150年)
[10ページ▶](#)

学部 10学部
大学院 5研究科
 人文学部・教育学部・法学部・経済学部・理学部・
 医学部・歯学部・工学部・農学部・創生学部
 教育実践学研究科・現代社会文化研究科・
 自然科学研究科・保健学研究科・医歯学総合研究科
[12~15ページ▶](#)

キャンパス 広大なキャンパス
サイズ 約75万㎡
 (五十嵐・旭町合計/東京ドーム約16個分)
[30~31ページ▶](#)

図書館 蔵書数新潟県内最大
 約156万冊
 (2019年4月1日現在)
 年間入館者数 約93万人
 (2018年度)
[28ページ▶](#)

病院 35診療科
 827病床
 年間外来患者延べ561,625人
 年間入院患者延べ263,228人
 (2018年度)
[27ページ▶](#)

予算規模 約635億円
 (2018年度)

学生 12,335人
 学部10,255人 大学院2,034人 別科46人
 (2019年5月1日現在)
[16ページ▶](#)

教職員 3,199人
 (2019年5月1日現在/役員含む)
教員 1,487人
 (2019年5月1日現在/特任教員含む)

学生 125団体
 サークル
 (2019年4月1日現在)
[20ページ▶](#)

就職率 98.9%
 (学部生/2018年度)
[19ページ▶](#)

各種 資格試験
合格率
 医師96.4% 歯科医師95.0%
 歯科衛生士100% 看護師97.4%
 保健師89.7% 助産師100%
 診療放射線技師91.9%
 臨床検査技師94.7%
 社会福祉士79.2% (2018年度)
[19ページ▶](#)

研究 外部資金受入額
 約33億円
 (2018年度)
 特許保有件数304件 特許出願数66件
 (2018年度末現在)
[22ページ▶](#)

国際交流 学術交流協定(海外)
 347件
 (2018年度)
 外国人留学生
 36の国・地域から545人
 (2019年5月1日現在)
 海外への留学生 775人
 (2018年度)
[23ページ▶](#)

連携協定 21件締結
 (2019年5月1日現在)
 (行政機関等14件 民間企業・金融機関7件)
[22ページ▶](#)

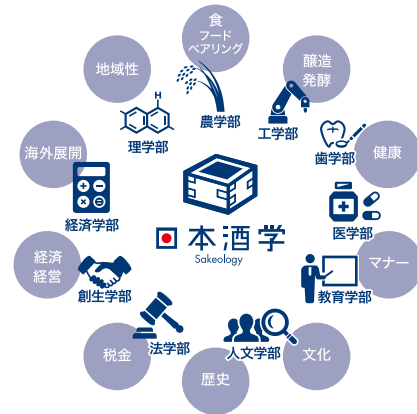
市民 正規授業を地域の方へ開放
開放授業 268科目
 (2018年度)
[21ページ▶](#)

世界初の学問領域「日本酒学」



～総合大学の強みを生かし、国際的な拠点形成と発展に寄与する事業を展開～

日本酒に関わる文化的・科学的な幅広い分野を網羅する学問分野「日本酒学」。新潟大学が取り組む日本酒学は、従来の醸造・発酵といった造りの領域から、日本酒が消費者の手に届くまでの流通、販売さらには地域性、健康との関係、税金など、日本酒に関連する様々な領域を内包した新しい学問領域を作り上げる世界初の試みです。



多岐に渡る所属教員の研究テーマ例

- 酒造りの歴史 ● 酒造り唄
- 日本酒のマナー ● 日本酒の海外展開
- 日本酒と健康 ● 酵母の遺伝の研究
- 日本酒と料亭・花街の文化
- 酵母の分離と日本酒開発
- 酒米品質の研究
- 日本酒と美味しさの科学
- 日本酒経済論 ● アルコールと脳

日本酒学の国際的な拠点の形成とその発展に寄与することを目的として、新潟県酒造組合および新潟県と連携し、2018年4月に研究推進機構附置新潟大学日本酒学センターを設置しました。10学部約50人の教員が、それぞれの専門分野でアプローチをし、総合大学の強みを最大限生かした領域横断型の研究を進め、「教育」「研究」「情報発信」「国際交流」の4つを柱に事業を展開しています。

日本酒学の授業では、日本酒に関する領域横断的な体系理解を進め、座学のほか、実習や演習を取り入れた主体的な問題解決型の学びを学生に提供しています。2018年4月に開講した講義には、定員300人に対し820人以上が聴講希望するほど盛況でした。また、同年11月に一般の方向けに開講した公開講座「日本酒学ことはじめ」には、申込開始からわずか2日で定員に達するなど高い注目を集めました。

2019年1月15日には、ボルドー大学と大学間交流協定、および同大ブドウ・ワイン科学研究所と本学日本酒学センターとの部局間交流協定を締結しました。今後の学術・学生交流の拡大だけでなく、新潟を日本酒の銘醸地として世界的に確立していくための第一歩となることが期待されています。

新潟大学が世界的な日本酒学の研究・教育拠点となり「日本酒を体系的に学ぶならば新潟大学」、「日本酒学と言えば新潟大学」といった世界的な認知を得られるように、今後は日本酒とその関連領域についての研究成果を積極的に発信していきます。



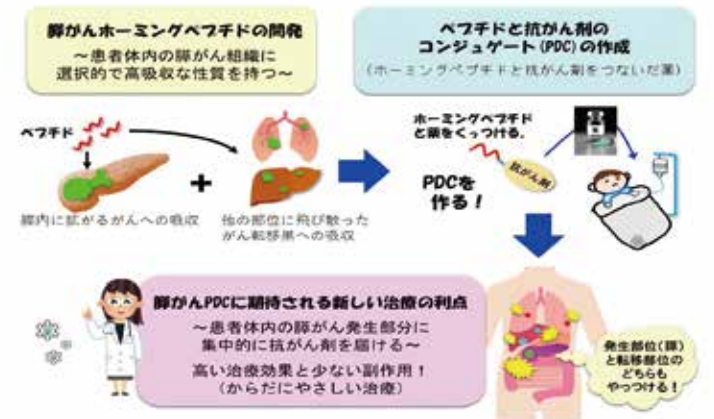
▲多数の学生が聴講した授業



ボルドー大学と交流協定を締結
写真提供: © Hugues Bretheau - Université de Bordeaux

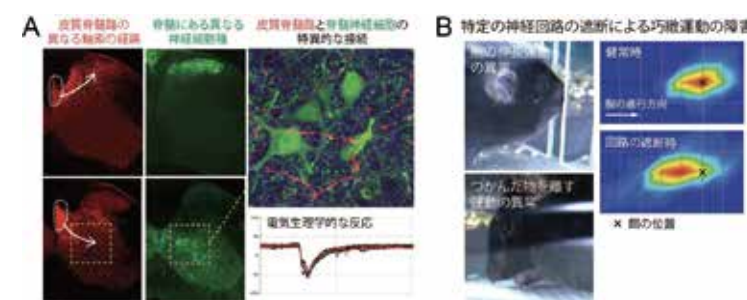
膵がん標的化新薬を共同開発

膵がんは10年生存率が部位別で最も低い現行医療上の最難治がんであり、膵がんの征圧は、がん医療における危急の解決課題です。大学院医歯学総合研究科分子細胞病理学分野(医学部実験病理学講座)の近藤英作教授らは、膵がん細胞へ選択的で高吸収性能を発揮する特殊ペプチド(膵がんホーミングペプチド)の独自開発に成功しました。このペプチドは生体安全性が高く、かつ体内の標的とするがん組織に高吸収性のため、輸送体として使うと抗がん剤を選択的にがん組織に集められます。この技術を活用して、抗がん剤創成の実績を持つエーザイ株式会社と協力し、同社米国子会社エーザイ・インクと革新的な治療効果を生む抗膵がん剤新薬を共同開発します。依然として重要な解決課題である膵がんの患者さんのために、従来薬に比べ低い副作用でかつ十分な効果を発揮する治療薬を開発しがん患者さんのベッドサイドに届けること、そして本邦発信の膵がん先進医療の確立を目指して、21世紀の新しい革新的ながん征圧医療技術の展開を目指していきます。



脳と脊髄を結ぶ「皮質脊髄路」の中に多様な神経回路が存在することを発見

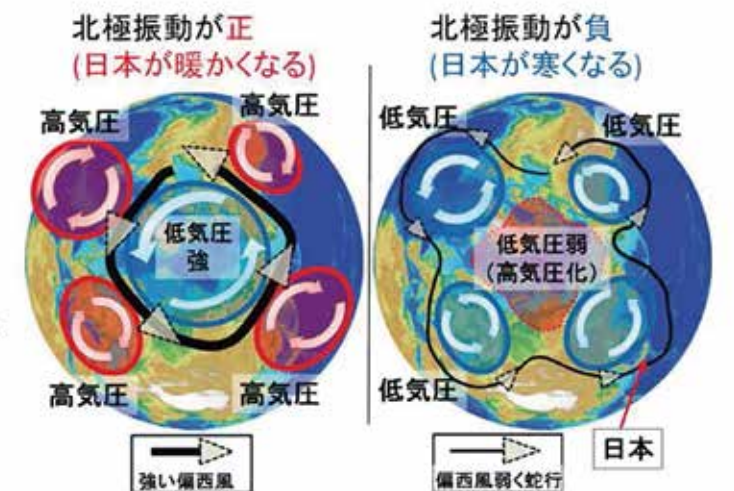
皮質脊髄路の中に潜む多様な接続様式と機能



大脳皮質と脊髄を結ぶ「皮質脊髄路」と呼ばれる神経回路は、運動を開始したり、手足を巧みに動かしたりするのに必要な神経回路として知られていますが、どのようにして動物の複雑な運動動作を生み出すことができるのか不明のままでした。脳研究所システム脳病態学分野の上野将紀教授、シンシナティ小児病院の吉田富准教授らの研究グループは、脳と脊髄を結ぶ「皮質脊髄路」の中に多様な神経回路が存在することを発見し、それらが運動動作をコントロールする神経地図としての働きを示すことを明らかにしました。皮質脊髄路の詳細な神経回路の構成、すなわち「神経地図」が明らかとなり、今後、脳卒中や脳脊髄の損傷など運動機能が障害される神経疾患において、機能を回復させる神経回路の実体解明に大きな手がかりとなることが期待されます。この研究は、科学技術振興機構(JST)戦略的創造研究推進事業(さきがけ)の一環として行われました。

北極振動と南極振動が同期して変動していることを発見

北極振動・南極振動は、北極または南極の低気圧が強弱を繰り返す現象のことで、偏西風が強弱を繰り返す現象ということもできます。北極と南極は地理学的に互いに最も遠くに位置していることから、北極振動と南極振動の同期した変動を調べた研究はこれまでありませんでした。理学部フィールド科学人材育成プログラムの本田明治教授と三重大学、北海道大学の研究チームは、北極振動と南極振動が同期して変動していることを発見しました。「同期して変動」とは、南極の低気圧が強いときには北極の低気圧も強くなり、弱いときには北極の低気圧も弱くなるように、北極と南極が同じように変化していることをいいます。北極振動は日本の寒冬や猛暑を引き起こし、南極振動はオゾンホールと関連しています。多発する異常気象のいくつかは北極振動が原因であり、この研究は日本の異常気象が遠い南極と関係を持つことを初めて示唆したものとなります。



教育学部の高清水准教授らが The PEPS Most Accessed Paper Awards 2018を受賞

教育学部理科教育専修地学教室の高清水康博准教授らが、2018年5月に行われた日本地球惑星科学連合2018年大会において、Progress in Earth and Planetary Science 誌のThe PEPS Most Accessed Paper Awards 2018を受賞しました。同誌は査読付きオープンアクセスジャーナルで、地球惑星科学の全分野、および分野を超えたテーマに関する論文を掲載する国際誌です。この賞は、表彰年度の前々年および前年に出版された論文を対象とし、表彰年度の前年末日までのアクセス数が多い1〜3編程度の論文に贈られます。受賞論文「New parameter of roundness R : Circularity corrected by aspect ratio (新しい円磨度パラメータ R : アスペクト比で補正した円磨度)」は、これまで定量化することが困難であった粒子の円磨度を定量化する新しい概念を提案しました。粒子円磨度の定量化は、地球科学の分野に限らず将来の多様な研究領域で応用される可能性を持っており、今後の進展が期待されます。



(写真提供: Progress in Earth and Planetary Science 事務局)

ビッグデータアクティベーション研究センターと NTTコムウェアが連携協定を締結



研究推進機構附属ビッグデータアクティベーション研究センター(以下「BDA研究センター」とエヌ・ティ・ティ・コムウェア株式会社(以下「NTTコムウェア」)は、2018年5月31日に「組織的な産学連携推進に関する協定」を締結しました。この協定は、ビッグデータ分野において連携し、研究成果の社会還元を促進するとともに、データ解析・活用に関わる人材の育成、ビッグデータ活用の基盤構築、地域社会への貢献を図ることを目的とするものです。協定締結により、ビッグデータビジネスを推進するNTTコムウェアと、医学・工学・農学・理学などの各研究分野に蓄積されている大規模データから新たな知識を創発することにより課題解決を狙うBDA研究センター双方の組織力を活かした協力体制へと発展させ、ビッグデータに関する学術研究、人材育成、ビッグデータ活用基盤構築及び地域活性化支援を推進してまいります。

ダブルホームが「NST 大好き!にいがた!」 キャンペーンとタイアップ

地域密着型プロジェクト「ダブルホーム」が「NST 大好き!にいがた!」2019年度キャンペーンにおいて、新潟の魅力を再発見・発信、および地方創生に向けた活動を企画・実施することとなりました。この企画では、新潟の美しい風景、ひと、食、文化、歴史など、県内外に誇るべき素晴らしい環境財産を発信し、未来の子どもたちにリレーすることで新潟の活性化、地方創生に寄与することを目的に行っているNSTの「大好き!にいがた!」キャンペーンと、地域や仲間の思いを大切にしながら、地域課題に学生・教員・職員によるチームで取り組む本学の「ダブルホーム」とが連携し、次代を担う若者の目線で新潟の価値・魅力を発信し、新潟の活性化を推進することを目的としています。今後は、「NSTまつり」や「新大祭」などの各種イベントでのタイアップをはじめ、キャンペーンに関連した活動がニュースおよび情報番組や特別番組において紹介される予定です。



佐渡自然共生科学センターを設置



これまで佐渡島内に設置していた理学部附属臨海実験所、農学部附属フィールド科学教育研究センター佐渡ステーション、研究推進機構朱鷺・自然再生学研究センターの3施設を統合してそれぞれの機能を融合することにより佐渡島の豊かな自然を活かしたフィールド科学に関する総合的な教育研究推進拠点となる「佐渡自然共生科学センター」を2019年4月1日に設置し、その開所式を同5日に佐渡市トキ交流会館において挙行了。佐渡島は森・里・海が近接し、多様な自然環境を総合的に研究できるフィールドで、センター開所を機に佐渡市との連携を更に強化して教育研究の充実に取り組むこととしており、佐渡市からも、産官学連携の更なる強化や大学生の若い力によって活気溢れる島になることが期待されています。センターでは、本学の学生のみならず海外大学の学生の実習を受け入れるなど、全国的・国際的な共同教育研究拠点として、新しい「自然共生科学」の展開を目指すこととしています。

教職大学院を改組し 「大学院教育実践学研究科」に

新潟大学教職大学院は、学校現場における課題、新潟県教育委員会及び新潟市教育委員会等からのニーズを踏まえ、高度専門職業人としての教員の養成を担う専門職学位課程であることに鑑み、2019年4月1日に「大学院教育実践学研究科」に名称を変更しました。また、より高度化を進めるために、カリキュラムの拡充として、教育実践コースに「教育実践分野」「教科教育高度化分野」「特別支援教育分野」の三分野を新設したほか、学生定員を5名(15→20名)増員しました。これまで以上に、学校現場の様々な課題に創造的に取り組むことのできる専門的な知識・技能を身に付けた高度専門職業人の養成を目指し、理論と実践の往還を通じた学びの充実を図ります。



2件の大学間連携共同教育推進事業に 文部科学省「S」評価

2012年度に採択された2件の「大学間連携共同教育推進事業」(事業年度:2012~2016年度)が、文部科学省から事後評価で最高ランクの「S」評価を受けました。

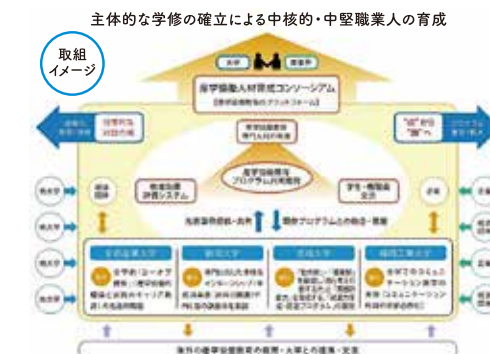
●連携機能を活用した歯学教育高度化プログラム

共通教材の開発、病態類型の完成、技能教育の客観的評価法の開発等の成果が、他大学の教育プログラムの構築、臨床実習終了時技能評価試験、モデル・コア・カリキュラム、歯科医師国家試験出題基準等に非常に大きなインパクトを与えていることが高く評価されました。

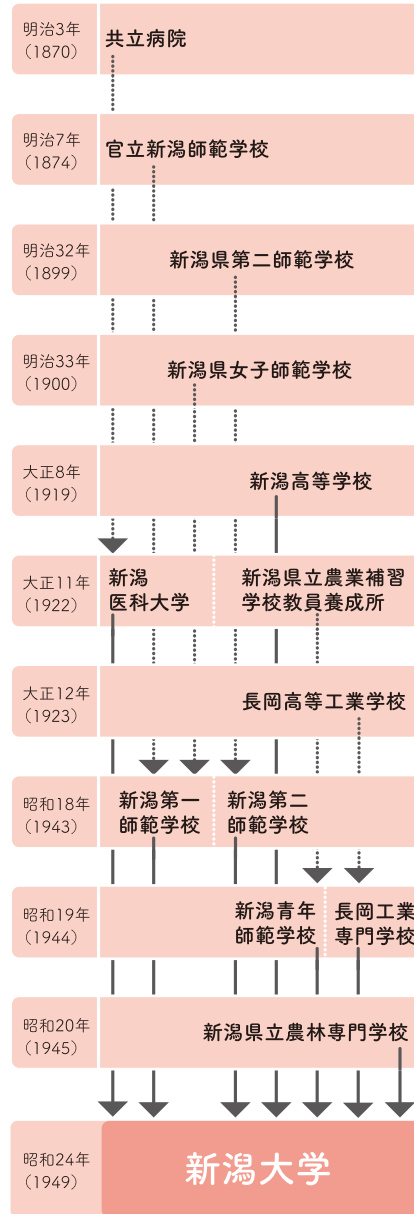


●産学協働教育による主体的学修の確立と中核的・中堅職業人の育成

学生の主体的な学修を確立することを通じ、地域社会の発展を担う中核的・中堅職業人の育成を目的とした産学協働教育プログラムの構築、かつ「相互評価・フィードバック・システム」による質保証システムの構築を実現したこと、また、その運営を担う人材育成のためのプログラムを開発していることなどが高く評価されました。



新潟大学のなりたち



新潟大学の校章

校章は雪の結晶をかたどったもので、1949年に本学のシンボルマークとして制定された学生章（作者：吉川長平さん/工学部）をモチーフに、本学創立50周年を記念して、小磯稔名誉教授（教育人間科学部）がデザインし、制定されたものです。



キャンパスに残る歴史的景観

煉瓦塀は1911年、医学部表門（赤門）は1914年に旧新潟医学専門学校講堂の正門と塀として造られました。旭町学術資料展示館は1929年に旧制新潟師範学校の児童博物館として建てられ、本学の学術資料約1,000点を公開展示しています。2005年11月、ともに国の登録有形文化財に登録されました。



昭和初期の赤門（新潟医科大学正門）

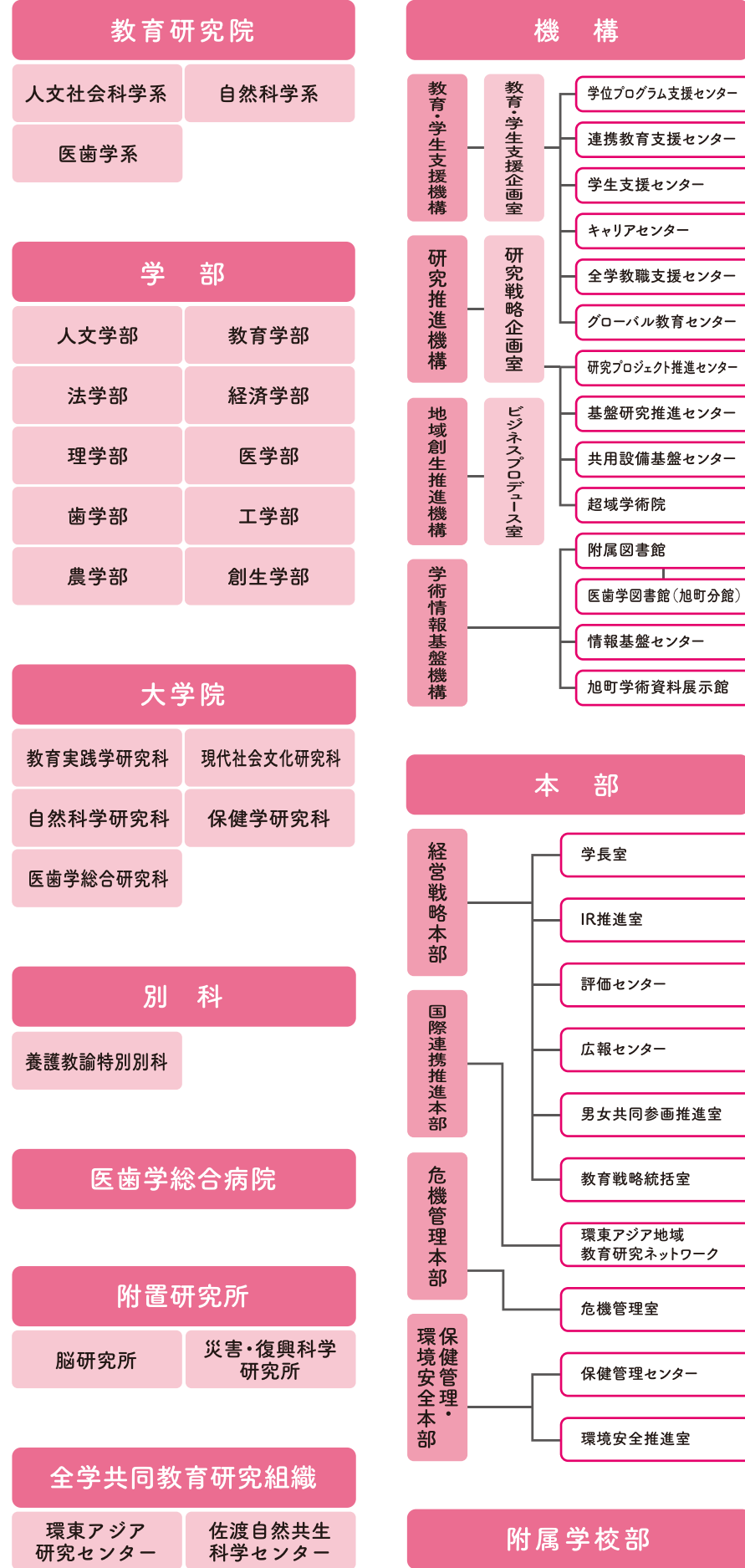


現在の赤門（医学部表門）



旭町学術資料展示館

組織図



新潟大学開学式（1949年）

人文学部 S10

人文学科

多様な外国語文献と古文書の読み解きから社会に学びの場を広げるフィールドワーク。そして現代の最先端の情報メディア研究に至るまで、幅広い分野を対象としています。現代社会の課題と要請に応える豊かな専門知識と幅広い視野を備えた人材の育成を目的としています。

- 学生数 1,013人 ■就職率 100%
- 主な就職先
裁判所事務官 総務省 新潟県 新潟市 札幌市長岡市 東日本旅客鉄道(株)
国立大学法人新潟大学 教員(公立・私立学校)
(株)第四銀行 損害保険ジャパン日本興亜(株)



教育学部 H2

学校教員養成課程/学習社会ネットワーク課程/
生活科学課程/健康スポーツ科学課程/芸術環境創造課程
(学校教員養成課程以外の4課程は2017年度から学生募集停止)

新潟師範学校時代から140年以上の伝統を持つ「教育の専門学部」です。学校教員養成課程では、専門職としての学校教員に必要な力量を実践的に養成します。また、他の4課程では、芸術・スポーツ・生活科学・生涯教育など、様々な分野において、専門的知識・技能と問題解決能力を養い、地域で活躍する人材を養成します。

- 学生数 1,114人 ■就職率 100%
- 主な就職先
教員(公立学校) 国税専門官 新潟県 埼玉県 秋田市 長野市 三条市 新発田市
(株)第四銀行 東日本高速道路(株)
(株)NTT東日本 東日本旅客鉄道(株)
大和証券(株)



法学部 H1

法学科

現代社会で積極的に活躍できる人材の養成を教育目標とし、演習形式の双方向授業の充実や賢人会議(著名人による講義)を行うなど、特色ある授業を展開しており、グローバル化に向けた教育や地域に根ざした教育にも力を入れ、社会に必要な人材の育成を行っています。また、2019年4月からは、法曹養成を目的とした「法曹コース」がスタートしています。

- 学生数 793人 ■就職率 97.2%
- 主な就職先
人事院 消費者庁 農林水産省 裁判所事務官 労働基準監督官 公正取引委員会 関東信越国税局 新潟県 新潟市 新潟県警察 全日本空輸(株) 野村證券(株) 東日本高速道路(株)



経済学部 H1

経済学科 / 経営学科

経済社会の複雑な現象を読み解く力を修得し、また、企業など様々な組織のマネジメントに関する実践的な能力を養い、地域社会や国際社会の幅広い分野で活躍できる人材を育成します。また、夜間主コースによる教育や、多くの留学生受け入れ等、地域・国際社会に開かれていることも特色の一つです。

- 学生数 1,352人 ■就職率 96.3%
- 主な就職先
経済産業省 東京国税局 厚生労働省 新潟県 富山県 福島県 新潟市 新潟県警察 (株)第四銀行 (株)北越銀行 (株)秋田銀行 新潟信用金庫 新潟県信用組合



理学部 N1

理学科

理学は、素粒子の極微の世界から、多様な物質・生命、地球さらには宇宙に及ぶ自然の仕組みを解明するとともに、医療・産業技術の開発、エネルギー問題や環境問題の解決など社会から要請される自然科学の基礎を提供することを目指します。理学部では、深い教養と高度な専門知識を身につけ、課題解決能力を備え、科学で社会に貢献する人材を育成します。

- 学生数 885人 ■就職率 98.9%
- 主な就職先
教員(公立・私立学校) 新潟市 (株)興和 NECソリューションイノベータ(株) (株)学究社 (株)第四銀行 (株)富士通新潟システムズ (株)北越銀行 TDK(株) 経済産業省 国税専門官 国土交通省東北地方整備局 北陸電力(株)



医学部 M1 M2

医学科 / 保健学科

医学部には6年制の医学科と4年制の保健学科があります。医学科は「医学を通して人類の幸福に貢献すること」を教育理念とし、実践的な教育を重視しながら、単に医師免許の取得に留まらず、医学に関連する多様な分野で活躍できる医療人・医学研究者の育成を目指します。保健学科は、全人的医療・チーム医療に貢献できる人間性豊かな看護師、診療放射線技師、臨床検査技師を育成するとともに、地域社会に貢献できる人材育成を行います。

- 学生数 1,479人 ■就職率 100%
- 主な就職先(保健学科)
新潟大学医学総合病院 新潟市民病院 新潟県 新潟市 東京女子医科大学東医療センター 長岡赤十字病院 山形県 福島県 東京都大田区 東京慈恵会医科大学附属病院 東京労災病院 千葉大学医学部附属病院 大阪市立総合医療センター

※医学科の主な就職先は、卒業後、臨床研修医になるため省略しています。



歯学部 M3

歯学科 / 口腔生命福祉学科

歯学部には歯科医師を養成する6年制の歯学科と、歯科衛生士・社会福祉士を養成する4年制の口腔生命福祉学科があります。先端的な口腔生命科学の教育・研究は国内外より高い評価を受けており、口腔や食べることの視点から包括的医療を実践し社会に貢献できる人材を育成しています。

- 学生数 349人 ■就職率 100%
- 主な就職先(口腔生命福祉学科)
新潟県 新潟市 名古屋市 東京都品川区 新潟大学歯学総合病院 藤田医科大学病院 静岡県立静岡がんセンター 小国町立病院 木戸病院 おだ歯科医院 ノエルデンタルクリニック万代 三条市社会福祉協議会 仙台市社会福祉協議会

※歯学科の主な就職先は、卒業後、臨床研修医になるため省略しています。



工学部 N2

工学科

理数科目などを基礎として社会や産業界で役立つものをつくるために必要な科学と技術を学ぶところです。「学ぶ力」と「つくる力」との総合力を「工学力」と呼んで、それを修得してもらうための教育を行っています。また、複合・新エネルギー材料、情報・センシングなど、国際的に評価の高い研究を推進しています。

- 学生数 2,306人 ■就職率 99.5%
- 主な就職先
トヨタ自動車(株) 日本精機(株) 東北電力(株) 富士通(株) 東日本旅客鉄道(株) キヤノンイメージングシステムズ(株) 関西電力(株) 大日本印刷(株) (株)コロナ 鹿島建設(株) 前田建設工業(株) 東日本高速道路(株) TDK(株) 日立金属(株) 宇宙航空研究開発機構(JAXA) 経済産業省 新潟県 福島県 新潟市



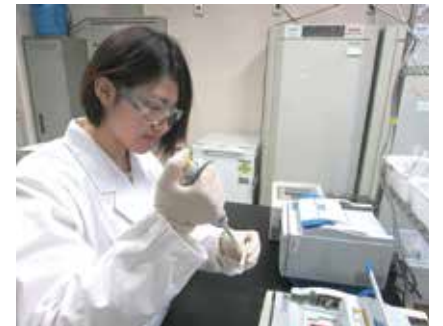
※就職率、主な就職先は2018年度卒業生のデータです。

農学部 N3

農学科

農学は「食料」「生命」「環境」を支える学問です。21世紀における持続的な農業の発展と環境の保全を目指し、国際的な視野を持ち基礎科学と応用技術を活用できる人材の養成を行っています。最新のバイオサイエンスや情報技術を活用し、地域貢献型プロジェクトにも力を注いでいます。

- 学生数 756人 ■就職率 100%
- 主な就職先
農林水産省 林野庁 新潟県 長野県 新潟市 さいたま市 全国農業協同組合連合会 本所 (株)第四銀行 (株)ブルボン 三幸製菓(株) デンカ生研(株) エヌシーイー(株) NECソリューションイノベータ(株)



創生学部 2017年4月新設 S10

創生学修課程

定められた一つの学問分野を軸に学んでいく従来の学部とは異なり、学生一人ひとりが自分で目標を設定し、課題や専門領域を選んで学びを創っていく、全く新しい教育プログラムです。課題を多面的に分析する力や専門分野が異なる人と協働する力を身につけ、科学技術の革新や社会の変革を牽引できる人材を養成します。

- 学生数 208人

※創生学部は2017年4月新設のため、就職率・主な就職先は掲載していません。



■内の英数字は30・31ページ「キャンパスマップ」内の位置を示します。

※就職率は就職希望者に対する就職者の割合です。

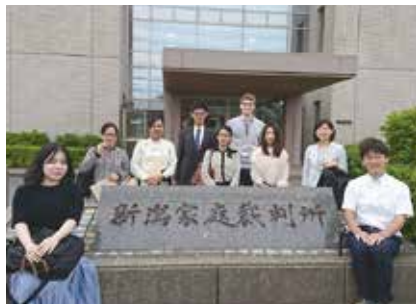
現代社会文化研究科 H4

【博士課程】

〔前期2年の課程〕現代文化/社会文化/法政社会/経済経営
〔後期3年の課程〕人間形成研究/共生文化研究/共生社会研究

「現代性」と「共生」を基本理念として設置された総合型の博士課程大学院です。日本・世界の諸課題を広い視野から学術的に探求できる高度専門職業人を育成します。社会人学生や留学生も多く、卒業生は広く社会で活躍しています。

- 学生数 250人
- 就職率 【博士前期課程】96.3% 【博士後期課程】100%
- 主な就職先(博士前期課程)
県内外税務・会計事務所 福島県 魚沼市 黒石市 教員(公立学校) 東日本旅客鉄道(株) (株)ノジマ キヤノントッキ(株) アイエックス・ナレッジ(株) 新日本無線(株) セントラル硝子(株) (株)イトラスト (株)パパまるハウス



保健学研究科 M2

【博士課程】

〔前期2年の課程〕保健学
〔後期3年の課程〕保健学

創造性豊かな教育と研究を基盤として、保健学の理論と実践を発展させ、その成果を広く社会、地域に還元することを基本理念とし、新潟県初の保健学系大学院として、医療、保健、福祉分野で活躍する高度医療専門職者や保健学に関する教育研究者の養成を行っています。さらに、国際医療活動や医療協力に貢献する人材にも力を入れています。

- 学生数 95人
- 就職率 【博士前期課程】100% 【博士後期課程】100%
- 主な就職先
新潟大学医歯学総合病院 新潟医療福祉大学
新潟南病院 新潟市民病院
新潟県立がんセンター新潟病院
新津産科婦人科クリニック 信州大学医学部附属病院
国立がん研究センター東病院 札幌保健医療大学
東京女子医科大学 埼玉医科大学
積水メディカル(株) タカラバイオ(株)



自然科学研究科 N4

【博士課程】

〔前期2年の課程〕数理物質科学/材料生産システム/
電気情報工学/生命・食料科学/環境科学
〔後期3年の課程〕数理物質科学/材料生産システム/
電気情報工学/生命・食料科学/環境科学

自然科学研究科は理学・工学・農学からなる総合型の大学院です。修士・博士の学位取得後は高度な専門性の高い研究能力だけではなく、幅広い総合的な知識や考え方を身につけた創造性豊かな人材となって、社会の様々な分野で活躍することができます。社会人特別選抜枠も設けており、長期履修が可能です。

- 学生数 1,140人
- 就職率 【博士前期課程】99.3% 【博士後期課程】95.7%
- 主な就職先(博士前期課程)
〔数理物質科学専攻〕
東芝メモリ(株) 古河電気工業(株) セイコーエプソン(株) アルプスアルパイン(株) 日本精機(株)
〔材料生産システム専攻〕
JFEスチール(株) 信越化学工業(株) トヨタ自動車(株) 日本精機(株) 三菱ガス化学(株)
〔電気情報工学専攻〕
東日本旅客鉄道(株) KDDI(株) 東北電力(株) キヤノン(株) 三菱電機(株)
〔生命・食料科学専攻〕
(株)第四銀行 (株)フルボン タキイ種苗(株) 東洋水産(株) 日清食品ホールディングス(株)
〔環境科学専攻〕
(一財)リモート・センシング技術センター エヌジーイー(株) (株)サカタのタネ 西武造園(株) 北陸電力(株)



医歯学総合研究科 M1 M3

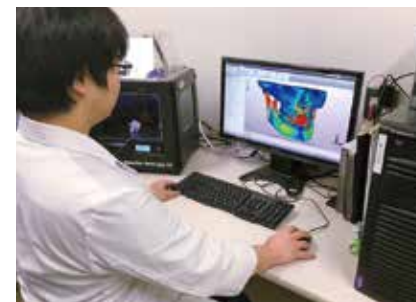
【修士課程】医科学

【博士課程】

〔博士前期2年の課程〕口腔生命福祉学
〔博士後期3年の課程〕口腔生命福祉学
〔4年の課程〕分子細胞医学/生体機能調節医学/
地域疾病制御医学/口腔生命科学

医学・歯学医療を取り巻く環境の変化に対応した教育や研究を行い、同時に医療界全体を取り巻く急激な環境変化に柔軟に対応する環境整備に努めています。先端生命科学を担う研究者や先進医療を行える医師や歯科医師、高度専門医療人の養成を目的としています。

- 学生数 506人
- 就職率 【修士、博士前期課程】100% 【博士、博士後期課程】100%
- 主な就職先(修士課程)
リードケミカル(株) (株)BSNアイネット (株)コスモビューティー (株)メディスサイエンスプランニング 五泉市



教育実践学研究科 H2

【専門職学位課程】

教育実践開発(教職大学院)

教職大学院は、高度専門職業人養成としての教員養成に特化した専門職大学院です。教員養成の先端的役割を担うことを目的に、確かな理論と優れた実践的能力を備えたスクールリーダーの養成並びに学校づくりの有力なリーダーとなり得る指導力・展開力を備えた新入教員の養成を通して地域及び学校の教育力の向上に貢献します。

- 学生数 20人
23人(教育学研究科、
2019年4月から名称変更)



養護教諭特別別科 H2

看護師資格を有する者または取得見込みの者を対象とした養護教諭養成のための1年制の課程であり、保健教育、保健管理、保健室経営や救急処置のような高度専門知識と実践的能力を身につけることができます。また、在学中に所定の単位を取得することによって養護教諭1種免許状が取得できます。

- 学生数 46人



学部入学者

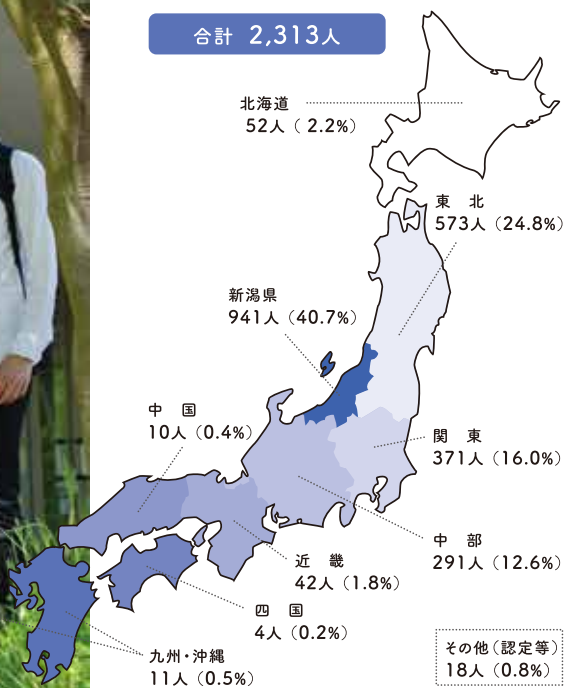
2019年度の学部入学者は2,313人。全国各地から入学者が集まりました。様々な分野に興味・関心を抱く学生が集い、学部や学年の垣根を越えて交流しています。

学部入学定員数(2019年度)

順位	大学名	入学定員
1	大阪大学	3,255人
2	東京大学	3,063人
3	京都大学	2,823人
4	九州大学	2,555人
5	神戸大学	2,547人
6	北海道大学	2,485人
7	東北大学	2,396人
8	広島大学	2,338人
9	千葉大学	2,317人
10	新潟大学	2,242人
11	岡山大学	2,195人
12	名古屋大学	2,107人

※編入学定員を含まない(文部科学省公表資料より)

出身高等学校所在地別学部入学状況(2019年度)



教育経費の重点投資

より良い教育環境のために最も重視しているのは学生の教育環境です。この環境整備のため、教育経費の重点投資を行っています。授業料以上の手厚い教育を学生に還元しています。



2018年度は延べ3,554人の学生(学部・大学院・別科)に対して約6億円の授業料免除を行っています。また、50人の学生に対して総額2,000万円の「輝け未来!! 新潟大学入学応援奨学金」を支給、105人の学生に対して総額1,050万円の「学業成績優秀者奨学金」※3を支給しています。

※1 内訳は教育経費、教育研究支援経費、教職員人件費、教育環境整備経費(2017年度決算より)
※2 学部生(夜間主コースを除く)
※3 2年以上の学部学生のうち、前年度の成績が在籍する学部の上位である者に、返還を要しない奨学金を支給



学業成績優秀者奨学金授与式

学位取得者・卒業生累計

	学士	修士	博士
学位取得者(2018年度)	2,334人	543人	136人
卒業生累計(2019年3月31日現在)	112,799人	17,148人	6,847人

高校からの評価

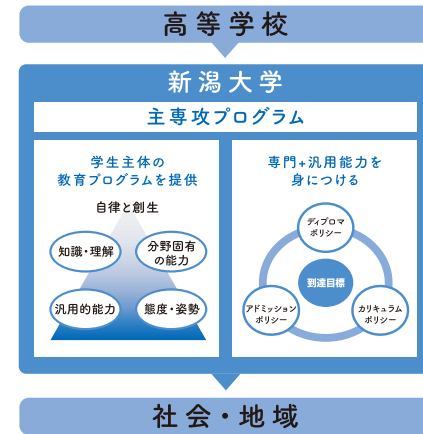


※朝日新聞出版「大学ランキング2020年版」より

主専攻プログラムと副専攻プログラム

主専攻プログラム

大学に入学すると、所属する学部が提示する教育プログラムで学ぶこととなります。それが「主専攻プログラム」です。本学では、38の到達目標達成プログラムと、到達目標創生型プログラムがあります。地域や世界の発展に貢献することを目的とし、課題解決のために広範に活躍できる人材を育成します。



副専攻プログラム

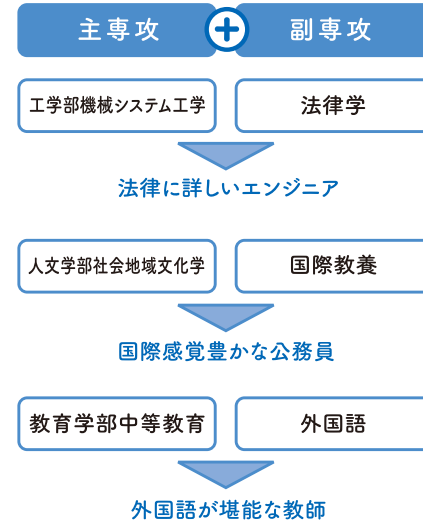
本学では、複数の分野にわたって体系的に学ぶことのできる「副専攻プログラム」を導入しています。これは、主専攻プログラムで学ぶ領域以外の部分での学習成果を「目に見えるもの」として認証するもので、「卒業時に学位記とは別に履修プログラムの認定証書が授与されます。「主専攻プログラム+副専攻プログラム」により、例えば「法律に詳しいエンジニア」など、一歩先行く人材創出につながる制度です。

課題別副専攻

- 環境学 ●MOT基礎 ●芸術学 ●文化財学
- 外国語(ドイツ語) ●外国語(英語)
- 外国語(フランス語) ●外国語(ロシア)
- 外国語(韓国語) ●外国語(中国語)
- 地域学 ●GISリテラシー ●国際教養

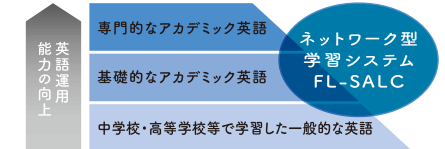
分野別副専攻

- 法学 ●政治学 ●経済学 ●電子・情報科学
- 統合化学 ●医学物理学基礎



英語教育

グローバルに活躍する大学生に必要なアカデミック英語(学業のための英語)の運用能力を養成します。1年次の授業では、基礎的なアカデミック英語の力をつけることを目標としています。これを土台として、学部や大学院で専門的なアカデミック英語を学ぶこととなります。同時に、24時間どこからでも利用可能なネットワーク型英語学習システムや、外国語学習支援スペースFL-SALCを活用することによって、自分の目標に向けて自分のペースで学習を進めることができます。



※詳細は新潟大学全学英語ポータルサイト
<http://www.iess.niigata-u.ac.jp/eigo/english>



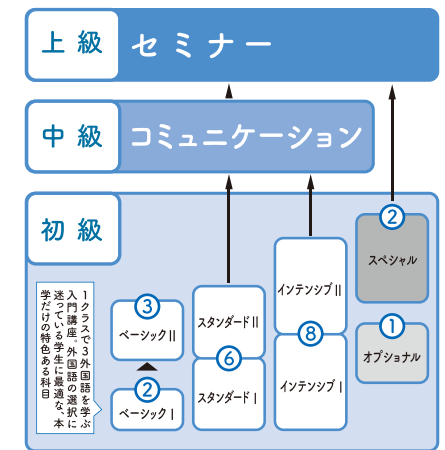
FL-SALCでの留学生との外国語チャット

初修外国語教育

本学の初修外国語教育のキーワードは「多様性」。ひとりひとりのニーズに応えるカリキュラムを用意しています。

- ドイツ語、フランス語、ロシア語、中国語、朝鮮語、スペイン語、イタリア語など、多様なラインアップ
- クラスは少人数制、密度の高い授業を実現
- 留学生と共に学ぶ「初修外国語チューター制度」
- 4年一貫カリキュラムにより、中・上級クラスまで継続可能

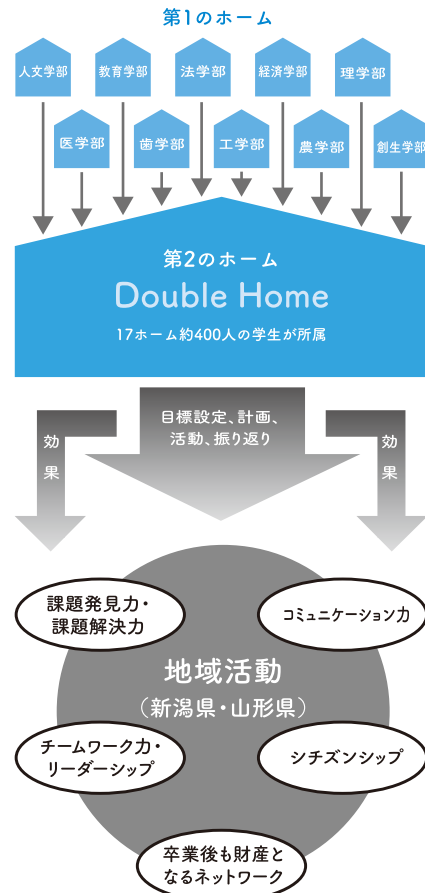
初修外国語の新潟大学方式



学生の支援

ダブルホーム

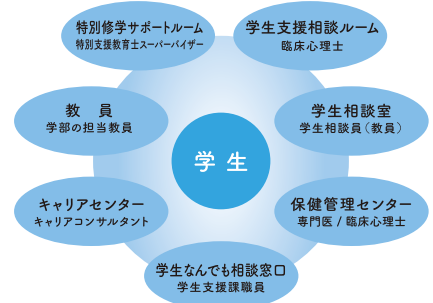
ダブルホームは、地域や仲間の思いを大切にしながら、正解のない地域課題に、学生・教員・職員によるチームで取り組むプログラムです。第1のホームである学部・学科という専門の学びの場を越えてつくる第2のホームで「新たなふるさとづくり」としての地域活動を行っています。学生たちは、地域の思いと向き合う中で「自分たちに何ができるか」をチームで考え、活動を計画・実践・省察することで、これからの社会生活に必要なシチズンシップやチームワーク力を育てています。ダブルホームは、正課外の活動として、学生たちの「地域のために何かしたい」「多様な人々と交流したい」「成長したい」といった思いから生まれる主体的な取り組みを可能とする場です。



昔ながらの米づくりを通して地域の魅力を発信する活動

きめ細かい相談体制

学生生活では、ときに学業・進路・対人関係等に悩むことも。本学では、学部の担当教員をはじめ、きめ細かい相談体制で充実した学生生活が送れるようにサポートしています。常駐するカウンセラーが問題解決に向けてお手伝いする「学生支援相談ルーム」、どんなことでも気軽に相談ができる「学生なんでも相談窓口」、進路に関する悩みには、キャリアコンサルタントの資格を有するスタッフを多数配置する「キャリアセンター」、さらに「学生相談室」の教員(全学部から選出)が相談員として対応にあたるほか、「保健管理センター」では健康面の相談ができるなど、一人ひとりと親身に向き合っています。また、障がいのある学生(入学を希望する者を含む)の修学支援のため「特別修学サポートルーム」が設置されています。



輝け未来!! 新潟大学入学応援奨学金

本学への入学を希望しながら、経済的理由により進学を断念せざるを得ない学業優秀な者に対して、入学時に必要となる学資の一部(40万円)を給付します。また、自宅が遠く通学が困難な場合は、学生寮(五十嵐寮)を優先的に確保し、寄宿料を免除します。在学中も授業料免除制度をはじめとする経済的支援制度や、日本学生支援機構奨学金などを組み合わせることにより、学資負担者からの経済的支援を受けずに学生生活を過ごすことが可能です。

- | 入学時 | 在学中 |
|--|---|
| <ul style="list-style-type: none"> 新潟大学入学応援奨学金 (一時金:40万円) | <ul style="list-style-type: none"> 入学料・授業料免除・徴収猶予制度 新潟大学学業成績優秀者奨学金 (一時金:10万円) 新潟大学修学応援特別奨学金 (月額3万円(12ヶ月限度)) 新潟大学修学支援貸与金制度 (5~10万円) 日本学生支援機構奨学金 |

入学時から在学中の経済的支援

キャリアセンターの役割

本学の学生に対する進路支援は、各学部とキャリアセンターが連携して行っています。キャリアセンターでは主に「情報提供」「進路相談」「各種支援行事の開催」など、学生の進路や就職に対する支援を行っており、常時相談できる体制で一人ひとりの相談・質問に応じています。キャリアコンサルタントの資格を有するスタッフを多数配置し、学生が「自分らしいキャリア」を形成できるよう支援しています。また、キャリアセンター担当教員による低学年向けキャリア意識形成科目を開講し、学生自身の将来を見据えたキャリア意識形成のサポートを行っています。

キャリア教育

- 情報提供**
 - 求人検索・セミナー映像閲覧
 - 進路関係資料・書籍
 - 各種情報をHP及びメール等で提供
- 進路相談**
 - 職員による窓口相談・予約制相談
- 支援イベント**
 - 全学就職総合ガイダンス
 - 企業等合同説明会
 - 年間様々な各種支援イベント実施



進路相談



学内で行われる企業等合同説明会(3日間で約400機関参加)

キャリア意識形成科目の開講

キャリア意識形成科目では、自己理解をするためのワークやグループディスカッションなど、実社会に出る前に必要なスキルを身につけていきます。授業は少人数制・学生参加型で進められ、主体的に学び、自ら考えることで気づきを引き出しています。

インターンシップ

将来のキャリアプランを考える時、インターンシップに参加することでそのヒントを得ることができます。インターンシップには大学の授業として行われるもののほか、自由応募型のものなど多様な種類・形態があります。新潟大学では学生が希望するインターンシップを見つけ出せるようホームページ等で情報提供するなど様々な支援を行っています。

学生の“できる”を育てる「CANシリーズ」

独自に開発したキャリア意識形成支援ツールを活用し、自己・他者理解を深めるとともに大学生生活の充実を図り、リアルな情報を収集することで、「自分らしいキャリア」を描くことができます。

- CANカード**
自己及び他者の「価値観」、「勤労観」などを明確にするカード
- CANガイド**
大学生生活を充実させるためのキャリア応援冊子(WEB版)
- CANチェック**
社会人基礎力を自己診断できるWebセルフアセスメント
- 就活応援手帳「SAKU」**
就職活動に役立つ手帳形式のガイドブック
- CANシステム**
卒業生からリアルな情報を収集できるメールシステム



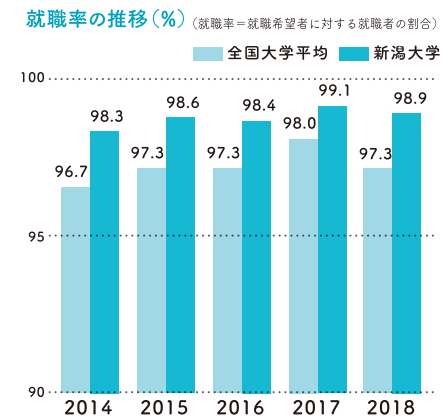
CANシリーズ活用マニュアル・CANカード

就活応援手帳「SAKU」

各種試験の合格率・合格者数(2018年度)

- 国家試験(合格率)**
- 医師 96.4%
 - 歯科医師 95.0%
 - 歯科衛生士 100%
 - 看護師 97.4%
 - 保健師 89.7%
 - 助産師 100%
 - 診療放射線技師 91.9%
 - 臨床検査技師 94.7%
 - 社会福祉士 79.2%
- 国家・地方公務員(警察官等含む)**
- 就職者数 336人
- 教員採用者数(臨時的採用含む)**
- 小学校 69人
 - 中学校 40人
 - 高等学校 24人
 - 特別支援学校 8人

就職率 98.9% (学部生/2018年度)



キャリア形成の支援



サークル活動

125の各種サークルに約6,000人の学生が所属。サークル活動を通じて多様な価値観を持つ人と交流し、かけがえない大学生活の思い出を作っています。

大会等の成績（2018年度）

- [合唱団] 全日本合唱コンクール全国大会出場
- [ヨット部] 全国ヨット個人選手権大会出場
- [ラグビー部] 全国地区対抗大学ラグビーフットボール大会出場

所属学生数ランキング

文化系	運動系
[1] MUSE(アカベラ) 222人	[1] 陸上競技部 108人
[2] 国際ボランティアサークル 216人	[2] ラクロス部 103人
[3] 音楽倶楽部 160人	[3] 探検部 93人



管弦楽団



アイスホッケー部

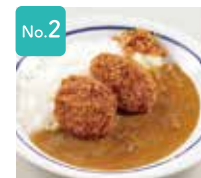
学生の食生活を支える学生食堂

定番メニューの他にも、月替りの季節メニューやご当地メニューがあるので、毎日あきずに利用できます。

五十嵐キャンパスの学食人気メニューランキング(定番メニュー)

- No.1 チキン竜田丼.....464円
- No.2 ヒレカツカレー.....410円
- No.3 豚汁.....86円
- No.4 チキンおろしだれ.....302円
- No.5 濃厚煮干しラーメン.....432円

(新潟大学生協 2019年4月現在)



No.2



No.3

学生の生活事情

首都圏と比べ経済的な住環境が整っています。

- 一人暮らしの学生の月平均支出額 115,200円(首都圏平均141,350円)^{※1}
 - 一人暮らしの学生の月平均仕送り額 63,390円(首都圏平均81,990円)
 - アルバイト経験のある学生 76.3%
 - 月平均アルバイト収入 37,300円
 - 平均昼食代 448円(首都圏平均478円)
 - 一人暮らしの学生の月平均食費 25,480円(首都圏平均29,940円)
- (以上第54回全国大学生協連学生生活実態調査より) ※1 住居費含む
- キャンパス周辺アパート家賃相場
 - バス・トイレあり 25,000~50,000円程度
 - バス・トイレなし 10,000~25,000円程度
 - 食事付きアパート(下宿) 35,000~50,000円程度
 - (以上新潟大学生協「入学準備資料2019」より)
 - 学生が借りているアパートの平均的モデル(五十嵐キャンパス周辺) 8畳/バス・トイレあり 40,000円

シーサイドキャンパス

五十嵐、旭町の両キャンパスとも海に近く、交通アクセスも良好。都市と自然が融合した、住みやすい環境で充実した大学生活を過ごすことができます。

- 五十嵐キャンパスから五十嵐浜までの距離 正門から約1,200m・北門から約750m
- 旭町キャンパス医学部保健学科から寄居浜までの距離 約650m



五十嵐キャンパス



旭町キャンパス

キャンパスカレンダー

4月1日	学年開始
	第1ターム(4月8日~6月10日)
	第2ターム(6月12日~8月6日)
	第3ターム(10月1日~12月2日)
4月3日	入学式
	黎明祭
4月13日	黎明祭
6月1日	開学記念日
8月11日	夏期休業(9月30日まで)
10月19・20日	新大祭
12月27日	冬期休業(1月5日まで)
3月11日	春期休業(3月31日まで)
3月23日	卒業式
3月31日	学年終了

社会の要請に応えるために

文部科学省が公募した「課題解決型高度医療人材養成プログラム」において選定された事業「発災〜復興まで支援する災害医療人材の養成」の一環として、2015年に「災害医療コーディネーターコース」と「次世代高度災害医療人材プログラムアドバンスドコース」の2つの教育プログラムを有する新潟大学履修証明プログラムを開設しました。このプログラムでは、全国で求められている次世代高度災害医療人材の養成を目的とし、医療者や行政担当者等の社会人を対象として、医療職と行政の「役割と連携」や災害全時相について幅広く履修します。国立病院機構災害医療センター、日本赤十字社医療センターなどの関係機関とも連携し、今後急速に全国自治体でニーズが増加する「行政と医療機関連携による災害医療対策のリーダー」たる次世代高度災害医療人材を養成していきます。



災害医療コーディネーターコース

ボランティア活動

キャンパス周辺の環境をあらためて考えるとともに、地域との交流を深める機会として、毎年恒例となった「新入生・在学生・地域による共同キャンパスクリーンデー」を実施しました。当日は、学生・教職員・地域の方々約200名がグループごとに大学周辺のゴミ拾いを行い、学生の環境意識を醸成しました。



新潟大学Week

本学で、地域のみなさんと交流を深めるため、毎年秋に開催している新潟大学Week。大学祭やバザー、科学実験教室、スタンプラリー、学生作品展など、小さなお子さんからご年配の方まで楽しめるイベントを開催。2018年度は38件のイベントに合わせて約19,000人の方々にご参加いただき、これまで以上に本学を身近に感じていただくことができました。



書道パフォーマンス



工学部祭

市民開放授業・大学見学

市民開放授業
正規授業を地域住民の方々にも開放しています。2018年度の開放対象授業科目数は268、延べ131人の市民の方々が受講しました。
大学見学
中高生のみなさんのための大学見学を積極的に受け入れています。2018年度には81校、5,008人の生徒などが訪れました。

公開講座

本学では、地域社会の皆様には生涯学習の機会を提供することを目的として、毎年公開講座を開設しています。皆様の生活に身近なテーマのもの、親子で楽しめる体験型のものなど、様々な講座を開設し、多くの方に受講いただいています。また、自宅にいなながらテレビやラジオで学べる放送公開講座も行っています。
公開講座
2018年度は13講座を開講し308人が受講しました。
放送公開講座
2018年度はラジオ公開講座1講座を開講し139人が受講者登録しました。



連携協定の充実

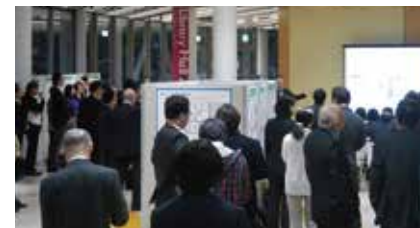
企業と大学との組織的な連携によって産学連携を活性化させることで、大型の共同研究プロジェクトや新たな分野への展開を進めています。2018年度は、建設業としては初めて、株式会社福田組との連携協定を締結しました。自治体、企業、金融機関、財団法人等との連携協定数は21件となり、総合大学ならではの幅広い分野での協力体制を構築し、企業や各地域の課題に応じた様々な事業を展開していくことにより、更なる地域貢献に繋げていくことを目指しています。



福田組との連携協定締結式

産金官学での交流を促進

地域に根差した総合大学として、大学の教育研究成果を広く社会に還元することを目的に、企業や金融機関、自治体等と、双方向による交流を進めています。本学では、それぞれの地域のニーズに応じたテーマで地域懇談会を開催しています。2018年度は8月(小千谷)、9月(佐渡)、11月(南魚沼)に、講演会やポスターセッションなどを企画し、当日は多数の地元の経営者や自治体関係者が参加されました。また、産金官学の交流のさらなる深化を目指して、11月に五十嵐キャンパスで3回目となる「新大産学交流フェスタ」を開催し、当日、行われた講演会や共同研究の事例紹介、ショートプレゼンテーション、ポスターセッションに対し、企業関係者ら約120名が参加され交流を深めました。11月には自治体関係者らを対象に、「新潟大学と自治体との連携による地域活性化事例発表会」を初めて開催し、約100名の参加により交流を深めました。



産学交流フェスタ



事例発表会

研究成果の発信

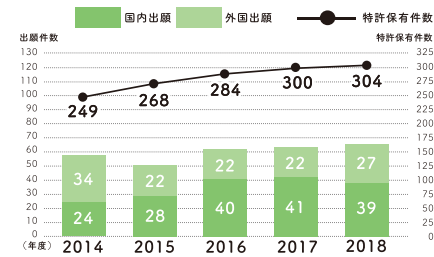
企業との共同研究推進を目的に、県内及び首都圏で開催される展示会や、新技術説明会において研究シーズのプレゼンテーションを積極的に展開しました。その一つとして、国内最大のマッチングイベント「イノベーションジャパン2018」では、地域創生推進機構ビジネスプロデュース室が中心となって、「大型マルチコプター(ドローン)の動力-小型ジェットエンジンで新潟のビジネスプロデュース」をテーマに大規模な組織展示を行いました。同テーマでのプレゼンテーションでは座席が不足するほど聴講者が多数参集し、注目を集めました。

地域産業競争力強化のためのビジネスプロデュース室

地域創生推進機構ビジネスプロデュース室の産学連携の新たな取り組みとして、燕三条地域の各種団体と「燕三条医工連携コンソーシアム」を2019年5月に設立しました。本コンソーシアムでは、本学における医療現場のニーズを基に、世界に誇る燕三条地域の金属加工技術に本学工学系研究者等の関連分野の知見も加え、新たな視点で世界へ訴求できる医療関連製品・器具等の開発を目指し、同地域企業等との連携を強化することを目的としています。今後もビジネスプロデュース室では同種のコンソーシアムを立ち上げることにより、地域企業との連携体制強化を図り、研究成果の社会実装を推進することを目指します。

特許の出願

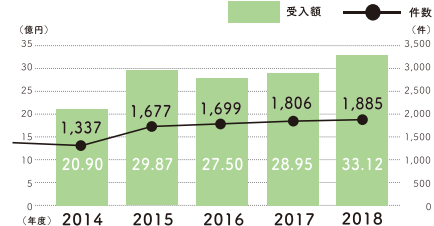
2018年度の特許出願件数は66件、2018年度末現在の本学の特許保有件数は304件に達しています。



※特許権の譲渡等により、前年度掲載値と一部異なることがあります。

外部資金の受入

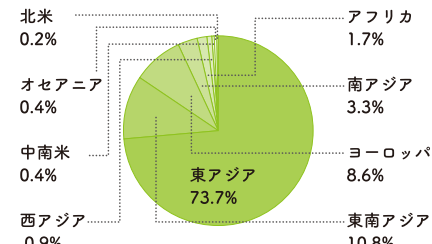
2018年度の外部資金受入件数は1,885件(共同研究245件・受託研究220件・寄附金1,420件)にのびりました。



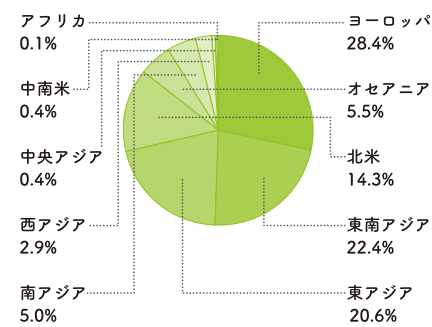
留学生

本学には36の国・地域から545人(2019年5月1日現在)の留学生がいます。また、本学から海外への協定校へ交換留学等により64人の学生が中長期の留学、短期の海外派遣プログラムなどにより495人、調査・研究・学会参加などにより216人、合計775人の学生が海外経験を積んでいます(2018年度実績)。2018年度の留学生の卒業生・修了生69人中20人が日本で就職し、うち3人は新潟県内で就職。本学留学をきっかけに多くの留学生が日本社会で活躍しています。

受入留学生の地域別割合



海外留学者の地域別割合



交流協定

本学は海外39か国・地域の大学と347件の交流協定を結んでいます。

交流協定件数(2019年5月1日現在)



短期海外留学プログラム(2019年度実施予定)

夏休み期間などを利用した全学部対象の短期海外留学プログラムがあります。

夏休みのプログラム

- 北京サマーセミナー
- 韓国サマーセミナー
- カナダ・サマーセミナー
- フィリピンALLC英語研修
- オタゴ大学英语研修

春休みのプログラム

- オーストラリア多文化共生社会体験プログラム
 - シンガポール・スプリングセミナー
 - オックスフォード大学英语研修
- 他にも学部独自のプログラムがあります。



脳神経難病の克服に向けて

脳研究所は、アルツハイマー病や脳腫瘍などのヒト脳疾患の病因・病理の解明を目指して、50年前にわが国で最初の脳神経に関する国立大学附置研究所として設置されました。ガンや心血管障害が克服されるのに伴い高齢化が進む現在、アルツハイマー病に代表される加齢性の脳疾患患者は倍増し、社会問題化してきたため、脳研究所は当該疾患の先進的診断法開発、新規治療法開発に挑戦しています。一例として、大学機能強化基本戦略3「システム脳病態学プロジェクト」の一端を担って、脳神経難病に伴う神経ネットワーク変化状況やその分子変化を全脳可視化することに着手しています。さらに共同利用・共同研究拠点として保有する脳疾患リソース（脳標本、モデル動物など）や最先端大型機器（7T MRI、次世代シーケンサーなど）を活用することで国内外の主要研究機関と共同研究を実施し、脳研究所の世界展開を図っています。

研究部門	研究分野	
基礎神経科学	分子神経生物学 細胞病態学 システム脳生理学	
病態神経科学	病理学 デジタル病理学 分子病態学(客員)	
臨床神経科学	脳神経外科学 神経内科学	
統合脳機能研究センター	脳機能解析学 生体磁気共鳴学 臨床機能脳神経学 デジタル医学	
生命科学リソース研究センター	バイオリソース研究	遺伝子機能解析学 生命情報工学 動物資源開発研究 モデル動物開発
	脳科学リソース研究	脳疾患標本資源解析学 分子神経疾患資源解析学 システム脳病態学 トランスレーショナル研究



ヒト脳神経疾患資源の1つである光学顕微鏡観察用ガラス標本保管室

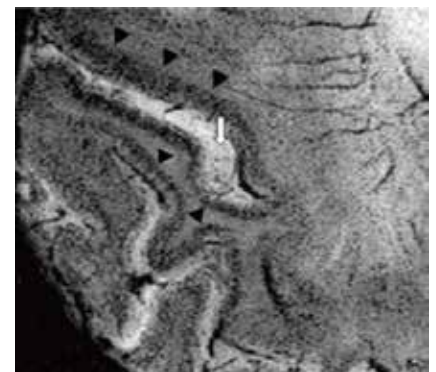


脳神経病理資源活用の疾患病態共同研究拠点

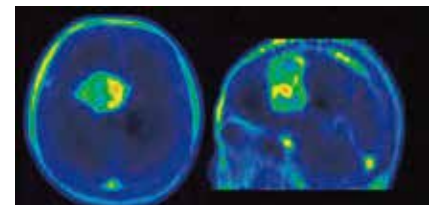
文部科学大臣が認定する「共同利用・共同研究拠点」制度は、個々の大学の枠を越えて、研究設備やデータ・資料等を全国の研究者が活用して共同で研究を行うためのシステムです。脳研究所は2010年4月より、「脳神経病理標本資源活用の先端的共同研究拠点」として認定され、ヒト脳疾患の克服を目指し、本研究所が所有する膨大な脳神経疾患に関わる資源と、それに関わる専門的な知識・技術をわが国の脳科学研究者コミュニティに公開し、脳神経病理学とその関連分野において多様な共同研究を創出し、実施してきました。さらに、2016年度から共同研究領域の広がりを踏まえて、「脳神経病理資源活用の疾患病態共同研究拠点」に拠点の名称を変更し、認定更新されています。

アルツハイマー病予防・治療薬の創生
【文部科学省 共同利用・共同研究拠点強化事業】

脳研究所統合脳機能研究センターにおける20年に渡る地道な研究は、アルツハイマー病の無侵襲な発症前診断につながる画像診断法を開発すると共に、アルツハイマー病の発症メカニズムに脳の水チャンネル蛋白であるアクアポリンの機能低下から生ずるアミロイド蛋白の排泄不全が関与していることを突き止めました。本事業はこれらの画期的な成果を踏まえ、MRI・PETを用いたアルツハイマー病の発症前診断法を開発・確立すると共に、開発された診断技術を用いたアルツハイマー病発症予防に生かすために、アクアポリンを抑制する薬剤の開発を行い、アミロイド蛋白の排泄不全を予防・治療する特異的な新薬を創生することを目標としています。



7T超高磁場MRIによるアルツハイマー病老人斑のイメージング



神経膠芽腫のアクアポリン4PET分子イメージング

災害に対して強靱な社会の形成のために

これまで40年以上におよぶ国内外の災害調査研究の成果と復興支援に関わる学術的知見に基づき、中山間地域における減災科学の構築を目指した研究活動を行ってきました。一方で、近年、全球的気候変動や地殻変動の活発化によって災害現象が激化・巨大化し、巨大地震に連動した地震・火山活動や複数の要因による複合災害のリスクが非常に高まってきていることを受け、日本海側の総合的な自然災害研究拠点としての役割を果たすことが本研究所に求められています。変容かつ激化する自然災害の学理を探索し、インパクトに対する適応能力が高いレジリエントな社会を構築することを目指して、2015年4月に3大部門8分野制から4大部門制に組織改編を行いました。

環境動態研究部門

日本海側地域に災害をもたらす集中豪雨・豪雪、突風などの顕著大気現象のメカニズムをグローバル・ローカル双方の視点から解明し、水循環の視点から水害・雪害・土砂災害の発生機構を明らかにする災害環境モニタリング・解析システムを構築することを目指します。

複合・連動災害研究部門

プレート境界(海溝部)の巨大地震に連動した背弧側(日本海側)の地震・火山活動や、温暖化に伴う急激な雪氷環境の変容による災害の集中、地震・火山活動と複合化した雪氷災害など、今後の積雪地変動帯における災害リスクの変容過程を解明し、これらに対応した減災機能の構築に貢献することを目指します。

防減災技術研究部門

土砂災害や都市域災害(洪水・津波・地盤災害など)に対して、予防限界の事前把握、早い察知・予測を実現する上で必要なメカニズム解明、シミュレーション、危険度評価等を行い、災害リスクに対してレジリエントな社会の構築に貢献し得る技術開発等を推進します。

社会安全システム研究部門

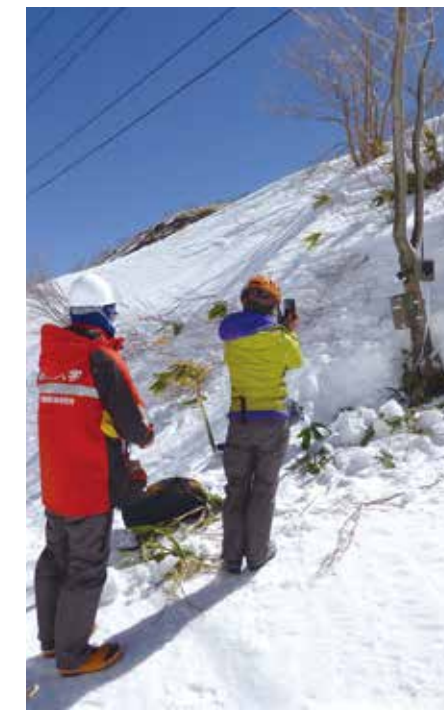
歴史災害における社会システムの変化や今後の巨大・複合災害の影響予測を踏まえて、情報技術を活用した災害対応や復興戦略に関する研究を行います。また、社会・学界・行政・国際防災機関等と連携し、災害に対してレジリエントな社会システムに関する研究を行います。

積雪地災害の研究ネットワークの構築

災害・復興科学研究所は、日本海側(積雪地帯)唯一の総合的災害研究機関であり、自然災害に強い地域社会の形成に貢献することは当研究所に課せられた重要な責務です。また、新潟県は日本国土軸の中心的位置にあり、その防災拠点としての役割が求められています。このような背景の中で、日本海側の災害研究ネットワークを構築するため、災害・復興科学研究所は積雪地帯に特有な災害(地盤、土砂、雪氷、洪水、火山)のメカニズム解明と減災に関する研究を広く展開するとともに、公募による学外の研究者との共同研究を積極的に進め、連携強化に努めています。



日本海側の災害研究ネットワーク



2018年 草津白根山での融雪型火山泥流の観測



環東アジア研究センター

環東アジア研究センター(Asian Link Research Center)は、2018年10月1日に設置された全学共同教育研究組織です。新潟大学が日本海側の中枢都市に所在していることに鑑み、日本、東アジアとそれを取り巻く地域をフィールドとして文理融合、領域横断的な研究活動を進めていきます。研究活動にあたっては、グローバル化があらゆるところに浸透し、どんな地域でも国内外の他の地域とのつながりを意識することが必要になっている現代社会の状況を踏まえ、地域間とのつながり Asian Link が重視されています。複数の研究プロジェクトが実施されており、日本、中国、台湾の中小企業のネットワーク、中央アジア、特にモンゴルを対象とした考古学、日本発の国際産業として急成長を遂げているアニメに関する国際分業やアーカイビングに関する研究などがあります。



シンガポールでのアニメ中間素材展



モンゴル現地調査

臨海実験所の実習船(佐渡自然共生科学センター)

佐渡自然共生科学センター

佐渡島の自然を総合的に科学する

佐渡島は森・里・海が近接し、それらは河川を通してつながっており、多様な自然環境を総合的に研究するフィールドとしては最適な場所です。離島でありながら、深い森に覆われた山岳、農耕に適したまとまった平地、暖流と寒流に洗われる海洋に接した多彩な海岸線を有するなど、自然の宝庫です。比較的狭い範囲にこれら多様な自然環境が連続している地域はわが国では珍しく、自然環境の研究対象として魅力的なフィールドです。佐渡島はこうした個性的な自然環境の恵みを受け、多様性に富んだ特徴的な生物相を有しています。また、佐渡島の自然は、古くから人間の活動と密接に関わりながら、独特の多様性が維持されてきました。自然と人間の共生という視点では歴史的・文化的にも価値が高いものです。



演習林の天然杉

佐渡自然共生科学センターは、これまで佐渡島に立地していた新潟大学理学部及び農学部の附属施設並びに新潟大学研究推進機構の施設を統合して森・里・海を総合的に科学する教育研究拠点として、2019年4月に新たに設置されました。センターは森林領域(演習林)、里山領域(朱鷺・自然再生学研究施設)及び海洋領域(臨海実験所)の3つの領域・施設で構成され、これまで行われてきた3施設の連携・協力体制を更に充実・強化するとともに、地域と連携、協働しながら、本学のみならず全国的・国際的な教育研究拠点として、新しい「自然共生科学」の展開を目指します。



野生復帰した朱鷺

医歯学総合病院

医科31診療科、歯科4診療科、計35診療科、827の病床を備え、地域の特設機能病院として、医学・歯学の両面から高度かつ先進的な医療を提供しています。1956年に日本初の腎移植を実施し、以後、肝臓、腎臓、膵臓、膵腎同時移植など、数多くの臓器移植を実施してきました。また、2011年10月には基幹災害医療センター(現・基幹災害拠点病院)の指定を受け、災害医療への充実も図っています。2012年11月に開院した外来診療棟に隣接して、コンビニエンスストアなどが入ったアメニティモールが2014年4月にオープンし、同年6月には、外来診療棟玄関前の送迎用ロータリーの設置、及び新潟交通定期バスの乗入れなどが実施され、2015年3月には患者用立体駐車場の新設など、更なる患者サービスの向上を図りました。本院は、その理念である「生命と個人の尊厳を重んじ、質の高い医療を提供するとともに、人間性豊かな医療人を育成します」に基づく病院づくりを一層推進し、社会に開かれた医療を実践する大学病院を目指します。



医歯学総合病院全景

地域指定病院等

- 臨床修練指定病院 (外国医師・外国歯科医師)(1988年3月指定)
- 関東・甲信越地区エイズ治療のブロック拠点病院(1997年12月指定)
- (財)日本医療機能評価機構 病院機能評価認定(1999年12月認定、2014年12月更新)
- 地域がん診療連携拠点病院(2007年1月指定)
- エイズ治療の中核拠点病院(新潟県)(2007年12月指定)
- 地域災害拠点病院(2008年4月指定)
- 新潟DMAT指定医療機関(2008年4月指定)
- 肝疾患診療連携拠点病院(新潟県)(2009年3月指定)
- 高度救命救急センター(新潟県)(2009年10月指定)
- 総合周産期母子医療センター(新潟県)(2010年4月指定)
- 基幹災害拠点病院(2011年10月指定)
- 基幹原子力災害拠点病院(2018年11月指定)
- 新潟県難病診療拠点病院(2019年4月指定)
- 新潟県アレルギー疾患拠点病院(2019年4月指定)

各診療科や受診方法、グランドデザイン等の詳細は、医歯学総合病院ホームページ(<https://www.nuh.niigata-u.ac.jp/>)でご覧いただけます。

ドクターヘリの運用

新潟大学医歯学総合病院は、平成24年10月よりドクターヘリの基地病院になっています。ドクターヘリとは、救急医療を専門とする医師と看護師が搭乗し要請から5分以内に出動可能な救命救急に必要な資機材を装備した救急専用ヘリコプターのことで、通報を受けた消防本部からの要請でドクターヘリは出動し、救急医療の専門医、看護師を救急現場に投入し、いち早く初期治療を開始することができます。新潟県内には6つの救命救急センターがありますが、救急搬送されるまでに60分以上を要する地域が存在します。ドクターヘリはこの現状を打破すべく運用されています。年間1000件以上の要請を受けて、700件以上の出動実績があります。また、平成29年3月に長岡赤十字病院にも導入され、現在2機のドクターヘリが運用されています。新潟県の厳しい医療事情から出動件数は今後さらに増加することが予想され、「空飛ぶ救急外来」と呼ばれるドクターヘリの活躍が期待されています。



ドクターヘリ

グランドデザイン2016-2021

2016年3月、本院は、将来ビジョン「新大病院グランドデザイン2016-2021」を策定しました。これは、社会的ニーズ・課題や本院の強み・特色を踏まえ、国立大学の第3期中期目標・中期計画期間(2016~2021年度)終了時点で本院がどのような姿であるべきか、そのためにどのような取り組みを行っていくべきかについて、診療・教育・研究における方向性を取りまとめたものです。

- Vision 1 「患者にやさしい高度医療」を推進し、健康長寿社会の実現に貢献します。
- Vision 2 グローバルな視点やリサーチマインドを備え、高度先進医療・地域医療においてリーダーシップを担う高度専門医療人を養成します。
- Vision 3 本学の持つ各分野の研究能力・実績を実践医療につなげ、医療イノベーションの創出に貢献します。



手術支援ロボット「ダ・ヴィンチSi」

その他の施設

附属図書館

附属図書館は、中央図書館（五十嵐キャンパス）と医歯学図書館（旭町キャンパス）で構成され、両キャンパスにおける教育研究活動を支援しています。主体的学習を支援するラーニング・commonsには、グループで学習するための仕器や電子黒板等の設備を備えるほか、中央図書館には外国語学習支援スペース「FL-SALC（エフェル・サルク）」も設置されています。また、研究支援のため中央図書館にリサーチ・commonsを設置し、学術コミュニケーションの場となる取り組みを進めています。



医歯学図書館



中央図書館

旭町学術資料展示館

旭町学術資料展示館は、本学が所有または保管している貴重な学術資料等を学生・職員ならびに広く社会に公開することにより、教育研究の推進および地域社会の教育機会の向上を目的に、旭町キャンパスに設置されました。1929年の建築当初は、旧新潟師範学校の児童博物館等に利用されてきた建物で、2005年、国の登録有形文化財に登録されました。「自然・技術の歩み」「人類史」をテーマとした常設展示や様々な企画展示、講演会、体験教室等を行っています。



外観

展示室

教育学部附属学校園

教育学部附属学校園は、新潟市中央区西大畑町と長岡市学校町の2地区に設置されています。西大畑地区には、小学校・中学校・特別支援学校があり、汎用的な思考ツールの活用やこれからの社会に必要なコンピテンシーを育成する教育、インクルーシブ教育を目指した通級指導教室など、21世紀に対応する学びの研究に取り組んでいます。長岡地区には幼稚園・小学校・中学校があり、一体型校舎内で連携し、子供の発達を長期的に捉えた12年一貫教育を行っています。文部科学省研究開発学校の指定を受け、統合的な学びの実現をテーマとして、地域と共に今日的な教育課題に取り組んでいます。各校園は、それぞれ交流・連携を図るとともに、地域の環境を活かしながら特色のある教育活動を進めています。



【上から】附属新潟小・中学校／附属特別支援学校
附属長岡小・中学校／附属幼稚園

駅南キャンパス ときめいと

JR新潟駅南口に直結するプラーク1に地域社会への知的貢献を行う拠点として、多目的利用が可能なサテライトキャンパスときめいとを2009年9月にオープンしました。ときめいとでは、新潟大学の情報を多数揃えており、展示やイベントも随時開催しています。2018年度は講演会、セミナー、各種イベント等に1,113件、延べ約23,500人の方々に利用いただきました。



お問い合わせ先

五十嵐地区 ☎(025)223-6161(代表電話)

- 事務局
- 人文学部
- 教育学部
- 法学部
- 経済学部
- 理学部
- 工学部
- 農学部
- 創生学部
- 教育実践学研究所
- 現代社会文化研究科
- 自然科学研究科
- 養護教諭特別科
- 災害・復興科学研究所
- 環東アジア研究センター
- 教育・学生支援機構
- 学位プログラム支援センター
- 連携教育支援センター
- 学生支援センター
- キャリアセンター
- 全学教職支援センター
- グローバル教育センター
- ☎950-2181 新潟市西区五十嵐2の町8050番地
- 研究推進機構
- 研究プロジェクト推進センター
- 基礎研究推進センター
- 共用設備基盤センター
- (機器分析部門)
- 地域創生推進機構
- 学術情報基盤機構
- 附属図書館
- 情報基盤センター
- 学長室
- IR推進室
- 評価センター
- 広報センター
- 男女共同参画推進室
- 教育戦略統括室
- 環東アジア地域教育研究ネットワーク
- 危機管理室
- 保健管理センター
- 環境安全推進室

旭町地区 ☎(025)223-6161(代表電話)

- 医学部医学科
- 医歯学総合研究科(医科)・附属腎研究センター
- 共用設備基盤センター(放射性同位元素部門)
- ☎951-8510 新潟市中央区旭町通1番町757番地
- 脳研究所・附属統合脳機能研究センター・附属生命科学リソース研究センター
- ☎951-8585 新潟市中央区旭町通1番町757番地
- 歯学部 ●医歯学総合研究科(歯科)
- ☎951-8514 新潟市中央区旭町通2番町5274番地
- 医歯学総合病院
- ☎951-8520 新潟市中央区旭町通1番町754番地
- 医歯学図書館(旭町分館)
- ☎951-8525 新潟市中央区旭町通1番町754番地
- 医学部保健学科 ●保健学研究科
- ☎951-8518 新潟市中央区旭町通2番町746番地
- 旭町学術資料展示館
- ☎951-8122 新潟市中央区旭町通2番町746番地

アクセス

- 五十嵐地区
- [JR] JR新潟駅 — (越後線/20分) → JR新潟大学前駅 — (徒歩/15分)
- [新潟交通バス] JR新潟駅前万代ロバスターミナル — (新潟大学行き/45分) → 新潟大学正門前 — (徒歩/1分)
- [タクシー] JR新潟駅 — (30分) → 五十嵐地区
- 旭町地区
- [JR] JR新潟駅 — (越後線/5分) → JR白山駅 — (徒歩/10分)
- [新潟交通バス] JR新潟駅前万代ロバスターミナル — (信濃町行き/15分) → 市役所前 — (徒歩/3分)
- [タクシー] JR新潟駅 — (10分) → 旭町地区
- 新潟空港 → JR新潟駅
- [新潟交通バス] 新潟空港 — (新潟駅前行き/30分) → JR新潟駅
- [タクシー] 新潟空港 — (20分) → JR新潟駅

西大畑地区

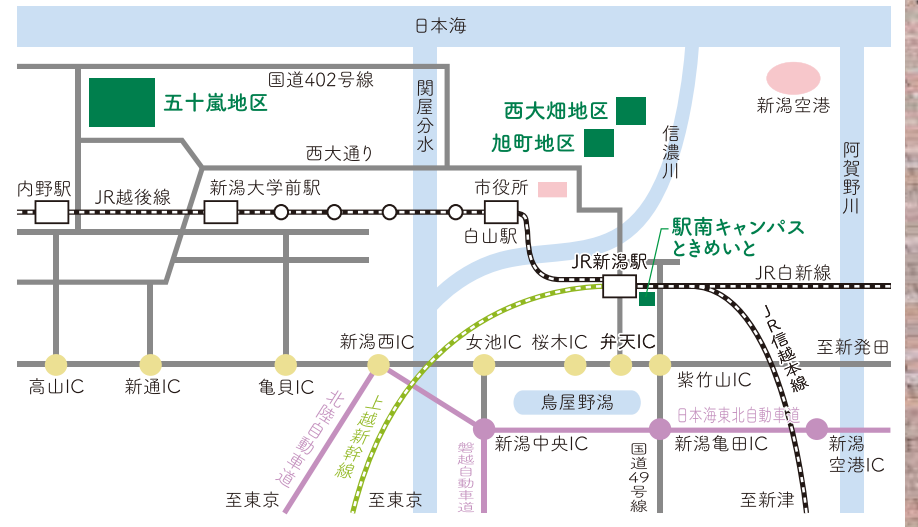
- 教育学部附属新潟小学校
- ☎951-8535 新潟市中央区西大畑町5214番地 ☎(025)223-8321
- 教育学部附属新潟中学校
- ☎951-8535 新潟市中央区西大畑町5214番地 ☎(025)223-8341
- 教育学部附属特別支援学校
- ☎951-8535 新潟市中央区西大畑町5214番地 ☎(025)223-8383

長岡地区

- 教育学部附属幼稚園
- ☎940-8530 長岡市学校町1丁目1番1号 ☎(0258)32-4192
- 教育学部附属長岡小学校
- ☎940-8530 長岡市学校町1丁目1番1号 ☎(0258)32-4191
- 教育学部附属長岡中学校
- ☎940-8530 長岡市学校町1丁目1番1号 ☎(0258)32-4190

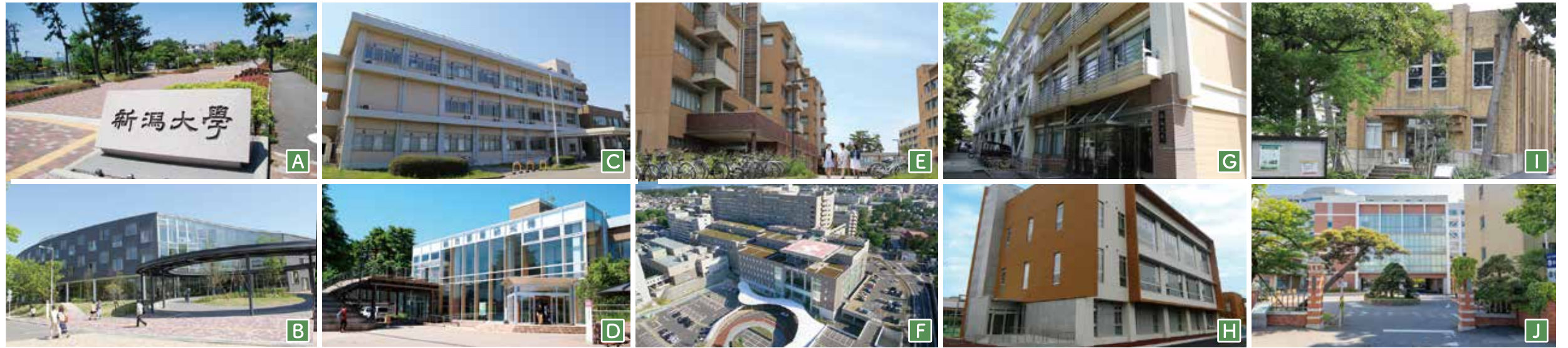
その他地区

- 佐渡自然共生科学センター(演習林)
- ☎952-2206 佐渡市小田94-2 ☎(0259)78-2613
- 佐渡自然共生科学センター(朱鷺・自然再生学研究施設)
- ☎952-0103 佐渡市新穂湯上1101-1 トキ交流会館2階 ☎(0259)22-3885
- 佐渡自然共生科学センター(臨海実験所)
- ☎952-2135 佐渡市達者87 ☎(0259)75-2012
- 農学部附属フィールド科学教育研究センター(村松ステーション)
- ☎959-1701 五泉市石曾根6934 ☎(0250)58-5737
- 農学部附属フィールド科学教育研究センター(新通ステーション)
- ☎950-2035 新潟市西区新通2156-1 ☎(025)260-1633
- 駅南キャンパスときめいと
- ☎950-0911 新潟市中央区笹口1丁目1番地 プラーク1・2階 ☎(025)248-8141
- 東京事務所
- ☎108-0023 東京都港区芝浦3-3-6
- キャンパス・インベーションセンター6階
- ※電話でのお問い合わせは研究企画推進部産学連携課 ☎(025)262-7886にて承っております。



お問い合わせ先
アクセス





〔五十嵐キャンパス〕 A 正門 B 附属図書館 C 災害・復興科学研究所 D 総合教育研究棟 E 総合研究棟(物質・生産系)

〔旭町キャンパス〕 F 医学部総合病院 G 脳研究所 H 旭町サークル共用施設 I 旭町学術資料展示館 J 医学部表門(赤門)

五十嵐キャンパス

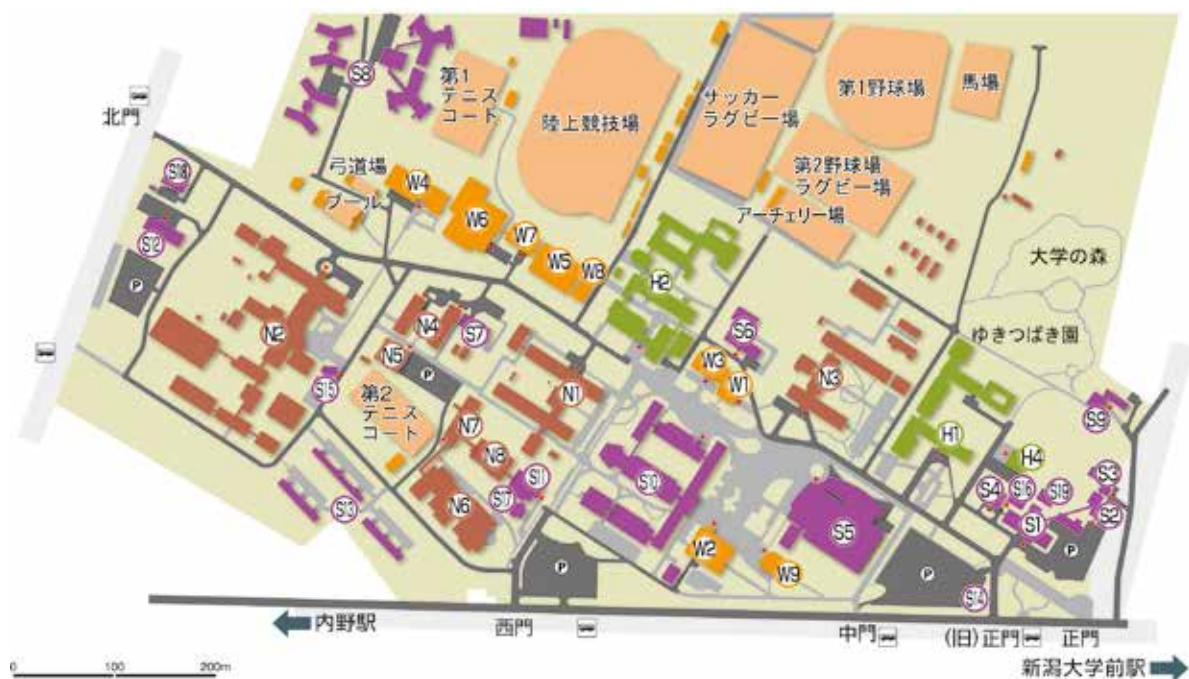
- 総合教育研究棟 (S10) ■ 人文学部 ■ 創生学部
○ キャリアセンター ○ 入試課
○ 学生窓口(学生支援課・教務課) ○ 留学交流推進課
- 人文社会科学系棟 (H1) ■ 法学部 ■ 経済学部
- 教育学部棟 (H2) ■ 教育学部 ■ 養護教諭特別科
■ 大学院教育実践学研究所 ○ 全学教職支援センター
- 理学部棟 (N1) ■ 理学部 ○ サイエンスミュージアム
- 工学部棟 (N2) ■ 工学部
- 農学部棟 (N3) ■ 農学部
- 大学院現代社会文化研究科棟 (H4)
■ 大学院現代社会文化研究科
- 大学院自然科学研究科棟 (N4)
■ 大学院自然科学研究科
- 総合研究棟(情報理工系) (N5)
- 総合研究棟(物質・生産系) (N6)
- 総合研究棟(生命・環境系) (N7)
- 総合研究棟(環境・エネルギー系) (N8)
- 災害・復興科学研究所 (S7)

- 事務局棟 (S1)
- 松風会館 (S2)
- 有朋会館(宿泊施設) (S3)
- 保健管理センター (S4)
- 附属図書館 (S5)
- 情報基盤センター (S6)
- 学生寄宿舎 (S8)
- 国際交流会館 (S9)

- 産学連携共同研究棟2号棟 (S11)
○ 連携教育支援センター
- 産学連携共同研究棟1号棟 (S12)
- 職員宿舎 (S13)
- 守衛所 (S14)
- 悠久会館 (S15)
- 男女共同参画推進室 (S16)
- 産学地域連携棟 (S17)
- 環境安全推進室 (S18)
- 危機管理センター (S19)

- 厚生センター(生活協同組合) (W1)
○ 購買部 ○ 書籍部 ○ サービスセンター ○ ATM
- 第1学生食堂 (W2)
- 第2学生食堂 (W3)
- 大学会館・第3学生食堂 (W4)
- 第1体育館 (W5)

- 第2体育館・第3体育館 (W6)
- 武道場 (W7)
- トレーニング施設 (W8)
- LAWSON, NIIGATA UNIVERSITY (W9)
○ ATM



旭町キャンパス

- 医学部棟 (M1) ■ 医学部医学科
■ 大学院医学総合研究科(医科) ○ 腎研究センター
- 医学部保健学科棟 (M2)
■ 医学部保健学科 ■ 大学院保健学研究科
- 歯学部棟 (M3)
■ 歯学部 ■ 大学院歯学総合研究科(歯科)
- 総合研究棟 (M4)

- 外来診療棟 (H1)
- 西診療棟 (H2)
- 中央診療棟 (H3)
- 病棟 (H4)
- アメニティモール (H6)
- 新潟医療人育成センター (H7)

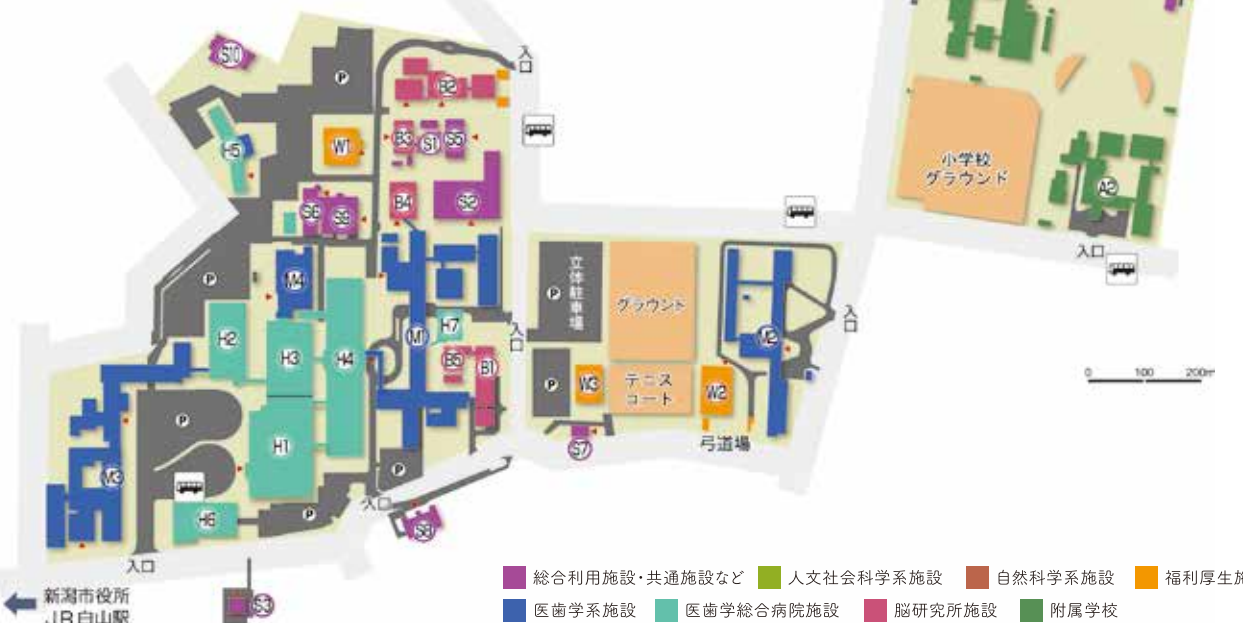
- R1 共同利用施設 (S1)
- R1 総合センター (S5)
- 医学部図書館 (S9)
- 旭町学術資料展示館 (S7)
- 中央機械室 (S2)
- 有任記念館 (S8)
- 康楽会館 (S3)

- 職員宿舎 (S4)
- 看護師宿舎 (H5)
- あゆみ保育園 (S10)
- 放送大学新潟学習センター (S6)
- 教育学部附属新潟小学校 (A1)
- 教育学部附属新潟中学校 (A2)
- 教育学部附属特別支援学校 (A2)

- 旭町地区福祉施設 (W1)
○ 保健管理センター旭町分室 ○ 売店
- 旭町第2体育館 (W2)

- 旭町サークル共用施設 (W3)

- 脳研究所 (B1)
- 動物実験施設 (B4)
- 附属統合脳機能研究センター (B2)
- 附属生命科学リソース研究センター (B5)
- 遺伝子実験施設 (B3)



- 総合利用施設・共通施設など
- 人文社会科学系施設
- 自然科学系施設
- 福利厚生施設
- 医学部系施設
- 医学部総合病院施設
- 脳研究所施設
- 附属学校



新潟大学 ホームページ

<https://www.niigata-u.ac.jp/>



新潟大学 SNS公式アカウント



Facebook

<https://www.facebook.com/niigata.univ>



Twitter

https://twitter.com/Niigata_Univ_O



Instagram

https://www.instagram.com/niigata_university



真の強さを学ぶ。

新潟大学

NIIGATA UNIVERSITY

編集・発行／新潟大学広報室

〒950-2181 新潟市西区五十嵐2の町8050番地

TEL.025-223-6161(代表)

リサイクル適性

この印刷物は、印刷用の紙へ
リサイクルで送ります

発行2019年6月